学生確保の見通し等を記載した書類（薬学部）

目　次

１．学生確保の見通し及び申請者としての取組状況

（１）学生確保の見通し

①定員充足の見込み・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ．２

②定員充足の根拠となる客観的なデータの概要・・・・・・・・・・Ｐ．３

③学生納付金の設定の考え方・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ．６

（２）学生確保に向けた具体的な取組状況

①学生確保に向けた取組方針・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ．６

②学生確保に向けた取組状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ．６

２．人材需要の動向等社会の要請

（１）人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的（概要）・・Ｐ．８

（２）人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠

①関係団体等からの要望・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ．１０

②既設学部の求人状況及び就職状況・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ．１０

１．学生確保の見通し及び申請者としての取組状況

（１）学生確保の見通し

「設置の趣旨等を記載した書類」において記載した通り、今回の薬学部設置は同一法人内の 2 大学（大阪医科大学、大阪薬科大学）を統合するための手続きである。

両大学は共に伝統ある大学であり、過去の志願者数実績からも十分な定員充足を見込むことができるが、大学業界の社会全体の急速な変化や 18 歳人口の減少を踏まえ、大学統合を機に医療系総合大学「大阪医科薬科大学」としてのリブランディングを図ることで、永続的に安定した志願者獲得に繋げる。

以下に示す通り、18 歳人口の全国的・地域的動向や、設置する薬系大学・薬学部の動向、近隣の競合校の状況、設置する薬学部の母体となる大阪薬科大学薬学部での学生確保の実績等を総合的に勘案し、大学統合後も薬学部の入学定員を大阪薬科大学薬学部と同じく 294 名とする。これらのデータや調査結果等から、定員充足の見込みは充分あると考えるが、未だ数値化、表面化されていない大学統合のシナジー効果を十分に発揮できるよう、設置認可後は学生募集活動の一層の強化及び積極的な広報活動を行う。

なお、薬学部薬科学科については、設置する薬学部の母体となる大阪薬科大学薬学部薬科学科において平成 30 年度より学生募集を停止しており、今般の設置にあたっても募集停止を継続するため、入学定員充足の見通しに関する記載は省略する。

設置時の令和 3 年度以降の入学生及び大阪薬科大学より転学する平成 30 年度以降の入学生は、入学時より全員が 6 年制の薬学科の配属となり募集停止中の薬科学科の選択権はないが、同じく大阪薬科大学より転学する平成 29 年度以前の入学生は、4 年次進級時に学科選択の権利を有することとなる。これらの学生が不利益を被らないための措置として、薬科学科は学生募集停止を継続し、新規の入学定員は設けず、学科配属年次となる 4 年次の収容定員を 2 名として設置する。なお、4 年次の定員 2 名を定めた根拠は、薬科学科の過去からの学科配属現員（1 名～2 名で推移）と、この先の同学科のニーズ及び学科選択の動向を勘案し、可能な限り実人員に則して設定した。薬学部薬科学科の設置に至る取扱いは、「設置の趣旨等を記載した書類」中の「募集停止中の学科の取扱い」に詳述している。

①定員充足の見込み

（ア）中長期的な 18 歳人口の動向、新設学部等の分野の動向

少子高齢化が進む我が国において、令和 6 年には 18 歳人口が約 106 万人まで減少すると予測されており、こうした人口構造の変化は国公私立を問わず、大学の置かれている環境をより厳しくするものである。一方で、我が国は世界有数の長寿国であるとも言え、国民の健康な生活を支える薬剤師という職業の重要性が今後一層高まることは明白である。

実際に、一般社団法人全国高等学校 PTA 連合会 株式会社リクルートマーケティングパートナーズ合同調査「高校生と保護者の進路に関する意識調査」（2017 年）の結果から、高校

生及びその保護者の薬学部進学意向が年々高まっていることが確認できる。【資料１：一般社団法人全国高等学校ＰＴＡ連合会・株式会社リクルートマーケティングパートナーズ合同調査第８月分回「高校生と保護者の進路に関する意識調査」2017 年報告書】

実際の薬学部の志願状況については、日本私立薬科大学協会「私立薬科大学（薬学部）入学志願者数等調」（2019 年度）によると、全国薬系学部の入学志願者数は前年比で減少しているように見える。しかしながら、入試倍率は大学間あるいは地域間で大きな開きが見られ、今回設置する薬学部の属する関西圏エリアの平均倍率は依然として高い数値を維持していることが読み取れる。【資料２：私立薬科大学（薬学部）入学志願者数等調（一般社団法人　日本私立薬科大学協会）】

（イ）競合校の状況

設置する薬学部の母体となる大阪薬科大学薬学部の創始は、遠く明治 37 年にさかのぼる。薬学部を有する近隣大学のうち、このような長い歴史を持つ大学は、京都薬科大学、神戸薬科大学が挙げられ、これら３校は互いの大学が立地する府県の高校を中心に募集活動を行い、切磋琢磨しながら今日に至っている。この３大学の薬学部は最近６年間入学定員を充足しており、また最近６年の志願倍率も安定的に８倍以上を維持している。【資料３：近隣薬科大学の学部設置状況並びに定員充足状況】

（ウ）大阪薬科大学における学生確保の状況

現在の大阪薬科大学薬学部の位置するキャンパス（阿武山キャンパス）は大阪府北部（北摂）という大きな市場に立地していることもあり、安定的な入学定員充足率、志願倍率を維持している。入学定員数 294 名に対し、最近６年間は約 2,500 名～3,500 名程度の志願者数と約８倍～10 倍程度の安定した志願倍率を維持している。【資料４：大阪薬科大学における過去６年間の入試状況】

②定員充足の根拠となる客観的なデータの概要

（ア）中長期的な 18 歳人口の動向、新設学部等の分野の動向

リクルート進学総研マーケットリポート「18 歳人口予測大学・短期大学・専門学校進学率地元残留率の動向」（2019）より、18 歳人口は令和６年には約 106 万人、令和 13 年には約 103 万人まで減少すると分析されている。【資料５：リクルート進学総研マーケットリポート Vol.70 2019 年 11 月号「18 歳人口予測　大学・短期大学・専門学校進学率　地元残留率の動向」】

同リポートのエリア別 18 歳人口予測においては、平成 31（令和元）年から令和 13 年にかけて減少数が大きいのは近畿であり、令和 13 年には約 17 万人となると予想されている。このことから、今回設置する薬学部においても 18 歳人口減少の影響を受けることは避けられないと考える。しかしながら、近畿圏は地元残留率が比較的高い地域であるとも分析さ

れている。また、文部科学省「大学進学時の都道府県別流入・流出者数」より、大阪府は東京都、京都府に次いで他県からの大学進学者が多いことが分かる。【資料６：大学進学時の都道府県別流入・流出者数（文部科学省）】

今回設置する薬学部のキャンパスは大阪府高槻市という、近畿圏の大都市である大阪市と京都市のほぼ中間に近い場所に位置し、キャンパス最寄り駅から大阪駅及び京都駅までは電車にてそれぞれ 20 分程度である。以上から、大阪府という大きな市場と京都府に近いという立地上の特性を活かした学生募集活動を行うことで、今後も安定的に志願者を確保できるものと考える。

また、薬学部進学に関する動向について、一般社団法人全国高等学校 PTA 連合会 株式会社リクルートマーケティングパートナーズ合同調査「高校生と保護者の進路に関する意識調査」（2017 年）によると、高校生が就きたい職業として薬剤師が 7 位（4.3%）となっている他、保護者が子どもに就いてほしい職業として薬剤師が 5 位（5.8%）となっている。同調査は隔年で実施されており、平成 25 年～平成 29 年における 3 回分の調査結果を比較したところ、高校生が就きたい職業・保護者が子どもに就いてほしい職業としての薬剤師の順位及び回答比率は年々上がっていることが確認でき、18 歳人口が減少している一方で薬剤師養成に対する需要は今後も上がることが見込まれる。【資料１：一般社団法人全国高等学校 PTA 連合会・株式会社リクルートマーケティングパートナーズ合同調査第 8 月分回「高校生と保護者の進路に関する意識調査」2017 年報告書】

同調査において、高校生が薬剤師を志す具体的理由としては「薬で誰かを助けたい。」、「国家資格なので結婚・出産後も働けるし、働き口が常に安定してあるから。」等が挙げられている。保護者が子どもに薬剤師に就いてほしいと思う具体的理由としては、「資格を持って、長く働いて欲しいと思うから。」、「国家試験であり、職の幅が広いと思う。人に接する事が好きで、性格的にも適しているのでは、と思う。」等が挙げられている。以上から、薬剤師という職業は、人の役に立ち、社会貢献性が高く、国家資格を取得すると安定的に仕事ができる魅力的な職業であると捉えられていることが分かる。また、同調査の調査結果トピックスでは、「高校生･保護者とも進路に関して『役立つ資格』『安定している仕事』『手に職』を望んでいる。」と分析されている。これら調査結果より、薬剤師の職業イメージ及び高校生・保護者の資格取得への強い意識が薬剤師養成需要拡大の一因であると考えられる。

また、日本私立薬科大学協会「私立薬科大学（薬学部）入学志願者調査」（2019 年度）によると、全国薬系学部の入学志願者数は約 8 万 9 千人と前年度に比べてやや減少している。しかしながら、入試倍率は大学間あるいは地域間で大きな開きが見られ、関西圏エリア全体で見た志願倍率（入学志願者総数／入学定員総数）は依然として高い数値（10.63 倍）を維持しており、関西圏の薬系学部には引続き強いニーズがあると言える。【資料２：私立薬科大学（薬学部）入学志願者数等調（一般社団法人　日本私立薬科大学協会）】

（イ）競合校の状況

京阪神地区で創立80年を経過し、かつ入学定員が250名を超えた大規模な私立薬科大学は、前述のとおり、大阪薬科大学（明治37年）、京都薬科大学（明治17年）、神戸薬科大学（昭和5年）の3大学で、この3大学の薬学部の入学定員の合計は924名となっている。また最近6年間の大阪薬科大学、京都薬科大学、神戸薬科大学の薬学部の入学定員充足率の平均についてみると、平成26年度は105.4%、平成27年度は103.1%、平成28年度は103.3%、平成29年度は106.0%、平成30年度は106.3%、平成31年度は104.3%となっており、安定した入学定員の充足状況を維持していることが分かる。加えて、最近6年の3大学の平均志願倍率は、平成26年度は11.2倍、平成27年度は10.1倍、平成28年度は9.1倍、平成29年度は9.1、平成30年度は8.6倍、平成31年度は8.1倍と推移している。【資料3：近隣薬科大学の学部設置状況並びに定員充足状況】

また、6年制薬学部における標準修業年限卒業率を前述の3大学間にて比較したところ、平成25年度入学生の標準修業年限卒業率は大阪薬科大学81.8%、京都薬科大学79%、神戸薬科大学72.0%となっている。【資料7：2019年（平成31年・令和元年）度の入学試験・6年制学科生の修学状況（一般社団法人　日本私立薬科大学協会）】

以上のことから、大阪薬科大学薬学部の定員をそのままスライドさせる形で大阪医科大学に薬学部薬学科を設置するにあたり、3大学の入学定員に増減は生じないこと、また、標準修業年限卒業率も3大学ともに高水準かつ、大阪薬科大学のみが80%超となっていることは志願者への大きなPRポイントであり、これまで通りの十分な定員充足の見通しがあるものと考えられる。

（ウ）大阪薬科大学における学生確保の状況

設置する薬学部の母体となる大阪薬科大学薬学部薬学科における最近6年間の入学志願者数等の実績については、平成26年度の志願者数は3,561名、志願倍率は11.9倍、平成27年度の志願者数は2,967名、志願倍率は9.9倍、平成28年度の志願者数は2,902名、志願倍率は9.7倍、平成29年度の志願者数は2,673名、志願倍率は8.9倍、平成30年度の志願者数は2,511名、志願倍率は8.5倍、平成31年度の志願者数は2,279名、志願倍率は7.8倍となっており、安定した志願者数を維持している。【資料4：大阪薬科大学における過去6年間の入試状況】

また、リクルート進学総研「進学ブランド力調査2019」では、薬学分野における分野別志願度ランキングにて大阪薬科大学は関西圏1位（19.0%）となっており、同調査の理系女子における志願度ランキングにおいては関西圏6位（5.4%）であった。【資料8：リクルート カレッジマネジメント218 / Sep. - Oct. 2019「特集　進学ブランド力調査2019」】このように、既に高い知名度と安定的な志願者数が確保できている中、この後に、医療系総合大学の薬学部として第一歩を踏み出すべく、既に始まっている大阪医科大学の医学部、看護学部と連携した専門職連携教育（IPE:Interprofessional Education）の推進を前面に

出し、大学統合に向けた準備を整えている旨、各高等学校進路指導部に説明を行っており、高等学校からの関心は非常に高い。

以上から、学生確保においては十分な見通しがあると考えられる。

③学生納付金の設定の考え方

学生納付金は、これまでの教育研究費や大学運営上の管理経費の推移と今後の教育研究環境の維持・充実に資することを勘案し、設置する薬学部の母体となる大阪薬科大学薬学部と同額とした。入学金及び授業料ともに、競合校を含めた近隣の私立薬系大学・薬学部の標準的な額に設定している。

＜近隣県の薬学部を持つ私立大学の学生納付金　（単位 円）＞

所在地	大学・学部・学科	入学金	授業料等
大阪府	**大阪医科大学薬学部薬学科**	**400,000**	**1,800,000**
大阪府	摂南大学薬学部薬学科	450,000	1,720,000
大阪府	大阪大谷大学薬学部薬学科	400,000	1,780,000
京都府	京都薬科大学薬学部薬学科	400,000	1,800,000
兵庫県	神戸薬科大学薬学部薬学科	400,000	1,800,000

（２）学生確保に向けた具体的な取組状況

①学生確保に向けた取組方針

設置する薬学部の広報活動については、設置認可申請中であることを考慮し、現在の大阪薬科大学の教育研究環境の充実、教育内容、就職実績及び大学統合後のビジョン等を周知することに努め、設置認可後は薬学部設置の目的、専門職連携教育（IPE:Interprofessional Education）の充実など医療系総合大学としての特徴的な教育研究内容等を高等学校及び薬学部への志願が期待される高校生等にオープンキャンパス、進学相談会、高校内ガイダンス、学生募集ホームページ等を通して入学試験制度等の周知を積極的に行い、学生確保に努めることとする。

以上の広報活動を通じ、医療系総合大学としての強みを全面的に打ち出し、「大阪医科薬科大学」（設置認可後、大学名称変更の学則変更届出予定）としての新たなブランド力を強化し、大学統合を志願者の更なる増加の契機とすべく、取組を積極的に推進する。

②学生確保に向けた取組状況

大阪薬科大学では、教員と事務職員による入試関連部門（入試委員会及び入試課）により、年間を通して積極的かつ全国的な学生確保の取組を実施し、薬学部 PR のため入試広報のみならず、大学や法人広報関連部門とも連携しながら学生募集活動を強化・推進しており、こうした組織的な広報活動が今日までの学生確保に繋がっていると言える。

設置認可後の学生確保に向けた取組としては、これまで大阪薬科大学にて行ってきた取組体制を継続・発展させ、設置する薬学部及び医療系総合大学としての特色を強く PR する予定である。

具体的な取組内容は以下（ア）～（エ）に記載する。

（ア）オープンキャンパス

大阪薬科大学では、春季（1 回）、夏期（3 回）、秋季（1 回）にオープンキャンパスを開催している。

過去の参加者数は、平成 26 年は 1,465 組・2,605 名、平成 27 年は 1,566 組・2,416 名、平成 28 年は 1,585 組・2,576 名、平成 29 年は 1,445 組・2,311 名、平成 30 年は 938 組・1,801 名（1 回あたり平均参加者数は概ね 400 名超）で、入学定員を大きく上回る実績となっている。なお、平成 30 年の参加者数が少ない原因は、大型の台風の影響により 7 月のオープンキャンパスを中止したことによる。

オープンキャンパスの内容は、入試説明会、入試対策講座、キャンパスツアー、オープンラボ（研究室見学）、模擬実習体験、在学生による大学生活紹介、教員個別相談、学生個別相談等である。また、入試説明会では説明しきれない学部・学科の細かな教育内容や学生支援体制等を紹介する大学案内や大学統合リーフレットを配付しており、これは以下の取組みについても同様である。

実施体制については今後も現状の体制を維持するが、実施内容については適宜見直しを行い、一層の受験生増に繋がるプログラム等を考案するよう努める。

（イ）進学相談会

大阪薬科大学では、高等学校や広告業者が主催する高校内ガイダンス（平成 30 年度実績 34 校）、進学相談会（平成 30 年度実績 29 会場）に参加している。高校内ガイダンスは京阪神地区の高等学校を中心に参加し、進学相談会は地方試験会場（福岡、広島、高松、名古屋、岡山）のある地域も含め、エリアを広げて参加している。今後もエリア毎に受験生獲得可能性を検証し、進学相談会実施体制の拡充を目指す。

（ウ）高校訪問

大阪薬科大学では、志願者・入学者の 7 割が集中している近畿圏や入学試験会場のある広島県、岡山県、香川県、福岡県、愛知県の高校訪問及び地方試験会場のある地域を中心に進路指導部を訪問している。訪問の際は、受験の実績、在学生の成績、入学者選抜方法、カリキュラム、進級率、就職等について説明を行っている（平成 30 年度実績のべ 350 校）。今後も高校との連携を密にして入学志願者の獲得に努める。

（エ）その他広報活動等

大阪薬科大学では、入試課による予備校訪問、進学雑誌・新聞への広告掲出、進学情報サイトの活用等の広報活動により、志願者の確保に努めている。

当然ながら、大学HPにおいても「入試情報」コーナーを設け、アドミッションポリシーや入試要項をはじめ、各種イベントやニュースを発信し、受験生がリアルタイムで情報を得られるようにしている。昨今スマートフォンがインターネット利用のメインデバイスとなっていることを踏まえ、大学HPのスマートフォン対応も実施している。その他、TwitterやLINEを活用する等、時流に乗った方法で広く情報提供を続けている。

また、所在する高槻市主催の各種公開講座や小中学生向けの薬剤師体験イベント、駅構内における広告掲出等により、学生だけでなく一般市民へも訴求する広報活動を全学的に実施している。近年の実績としては、高槻市主催「夏休み子ども大学」への講座提供、駅近辺における広告掲出（JR大阪駅及び近鉄上本町駅の電照看板、JR京都駅、高槻駅、広島駅、高松駅のデジタルサイネージ等）が挙げられる。広告掲出場所の選定は、キャンパス付近で利用者数の多い駅、入試地方会場最寄り駅、高校、予備校が多く受験生の目に触れやすい場所等、幅広い観点を取り入れている。現在掲出中の広告については、令和2年度も継続する予定である（設置認可後にはデザインを変更、統合後大学の情報を盛り込む予定）。なお、看板（サイネージ）の内容は、通常は大学を広くPRするものとなっているが、オープンキャンパス前にはその告知を含めたものに意匠替えしている。

大学統合後は薬学部として本取組を継続実施するとともに、医療系総合大学の魅力を全面的に打ち出したPRを行い、大学全体の認知度の更なる向上及び薬学部の志願者数の増加を図る。

以上の通り、大阪薬科大学薬学部では学生募集活動における豊富な実績があり、過去5年間の志願者数、入学者数ともに定員を充足するのに十分な数で推移していることから、現在の体制を継続し、更に発展させることにより、設置する薬学部においても入学定員を十分に確保できると考える。【資料4：大阪薬科大学における過去6年間の入試状況】

また、大学統合計画が決定した平成31年度以降は、受験生向けの広報活動において、入学後に全学生が大阪医科大学へ転学する予定であることを伝えるべく、リーフレットを作成する等、大学統合に関する計画、統合後大学のビジョン、展望に関する情報も含め情報発信している。なお、これらの情報は、設置認可前であることを踏まえ、受験生等のステークホルダーに誤解を与えることのないよう十分に留意し、広報活動を行っている。

２．人材需要の動向等社会の要請

（１）人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的（概要）

現在、調剤機器や情報技術の発達により、AIやロボットを活用した対物業務の効率化・省人化が進むなど、薬剤師が置かれている状況は変革の時を迎えており、薬剤師に求めら

れる職能が、これまでの調剤等の“対物”を中心とした業務から、医師や看護師等の医療従事者、患者との議論・対話をベースとした“対人”業務へとシフトしている。これは同時に、6年制薬学教育に対し、臨床現場でのチーム医療の一員として、また、厚生労働省が提唱する地域包括ケアシステムの構築における地域医療の担い手として、薬に対する高度な知識と技術、高い生命倫理観を持ち合わせた上で、患者の状態・病態を把握し医師と議論を重ねることのできる薬剤師の養成が社会から求められていると言える。つまり、薬学教育には、患者の身体の健康状態を評価し薬物の適正使用及び副作用出現の有無を確認するためのフィジカルアセスメント等の技能、医療人としての倫理観の醸成はもとより、臨床現場でのチーム医療において、医師や看護師等の医療従事者との実践的なコミュニケーション能力までをカバーすることが求められている。

薬学部の設置により、医学、薬学、看護学の3学部を擁する大学となることで、これまでの薬学教育で不足していた実践的な教育、特に3学部及び附属病院を含む専門職連携教育（IPE：Interprofessional Education）をさらに推進し、医療系総合大学としての強みを最大限に活かし、社会からそして臨床現場から真に求められる質の高い薬剤師を輩出することを目指す。

加えて、将来的な薬剤師の供給過剰予測に対し、現状においては薬剤師不足が続いており、特に地方の薬剤師不足は深刻な状況にあることから、これまでも薬剤師が不足している地方自治体と就職支援協定を締結し、様々な活動を通じて地方の薬剤師不足に貢献する活動を行ってきたが、今般、設置する薬学部においても、この活動を継続するだけでなく、さらに発展させて西日本の薬剤師不足の地域にまで広げていく計画であり、地方の地域医療に積極的に参画できる薬剤師を養成し、都市部や関西圏のみならず地方への社会貢献を果たしていく。

設置する薬学部薬学科・薬科学科の教育上の目的は、次のとおりである。

薬学部薬学科の目的
(1) 生命の尊厳と人権の尊重を基本に、人々の生き方や価値観を尊重できる豊かな人間性を育成する。 (2) 多様な人材と共同し、薬学や医療の分野で国際的に通用する新しい知識や技術を創造できる能力を育成する。 (3) 科学的知識と倫理的判断に基づき、薬学に関する専門知識、情報や技術を効果的に活用した医療が実践できる能力を育成する。 (4) 薬剤師として地域社会の特性を学び、多職種と連携し協働してさまざまな健康課題に取り組むことができる能力を育成する。 (5) 薬剤師として専門能力と教育能力を自律的に探求し、継続的に発展させる基本的姿勢を育成する。

薬学部薬科学科の目的
健康、生命に関する有機的・総合的な知識を持つとともに、応用力、研究力を身に付けた薬学を基盤とする多様な分野で活躍できる人材の要請を目的とする。

なお、薬学科の目的は、大阪薬科大学薬学部薬学科の目的を踏襲するとともに、統合後大学の目的との関連や他学部の目的の表現等を踏まえ整理したものである。薬学科については、薬剤師の養成が主目的であり、6 年制薬学教育が準拠すべき「薬学教育モデル・コアカリキュラム（平成 25 年 12 月 25 日）」において明示された「薬剤師として求められる基本的な資質」を全て踏まえた内容として、社会が薬剤師に求める臨床に係る実践的な能力と医療人としての自負並びに倫理感を併せ持つ人材の養成について示している。

一方、薬科学科については、大学統合にあたり、学生の権利保障のため、学生募集停止を継続したまま設置する学科であるため、大阪薬科大学薬学部薬科学科の目的から一切の変更はない大学院進学を踏まえた薬学研究者・技術者等の養成が主目的であり、基礎薬学分野における多様な人材の養成について示している。

（２）人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠

①関係団体等からの要望

設置する薬学部の母体となる大阪薬科大学に在籍する学生のおよそ 3 分の 2 が､大阪府、兵庫県、京都府内に居住することから、各府県の職能団体（大阪府薬剤師会、大阪府病院薬剤師会、兵庫県薬剤師会、兵庫県病院薬剤師会、京都府薬剤師会（京都府病院薬剤師会は、京都府薬剤師会の下に病院診療所薬剤師部会として設置））を訪問し、大学統合及び医療系総合大学としての薬学部の設置の意義について説明を行い、意見を聴取した。各団体からは､「大学統合により更に推進・充実が期待される医学･薬学･看護学の専門職連携教育（Interprofessional Education:IPE）を通じて、薬学教育の基本である『医薬品に対する高度な知識や技能』の習得に加え､『人の命に関わる医薬品を扱うための高い生命倫理観』を習得した薬剤師を養成することが最も重要なこと」であるとし、地域社会の保健、医療、福祉の向上に寄与できる薬剤師を養成されることを要望する。」とした薬学部の設置に対する要望書が提出されており、大学統合と薬学部の設置に対する期待の高さがうかがえる。

【資料 9：大阪府薬剤師会、大阪府病院薬剤師会等の要望書】

このことから、設置する大阪医科大学薬学部の設置及び人材の養成に関する目的その他教育研究上の目的が、社会的、地域的な人材需要の動向等社会の要請を踏まえたものであるといえる。

②既設学部の求人状況及び就職状況

＜薬学科＞

大阪薬科大学薬学部薬学科における最近5年間の求人票受付件数は、平成26年度は就職希望者319人に対して求人件数1,656件、平成27年度は就職希望者283人に対して求人件数1,583件、平成28年度は就職希望者286人に対して求人件数1,442件、平成29年度は就職希望315人に対して求人件数1,437件、平成30年度は就職希望者322人に対して求人件数1,288件となっている。大阪薬科大学薬学部薬学科に届く求人票には、各企業･団体の当該年度に募集する求人数が一括して記載されており、大手薬局･ドラッグストアチェーンでは薬剤師資格取得見込者を数百人の規模で募集するものも多くあることから、ここでは求人票受付件数のみを記載した。なお、近年、薬業関連企業や薬局･ドラッグストア等においては、大学に求人票を送付することなく就職ナビや自社ホームページを利用した募集が一般的になっており、求人票受け取り件数だけで見ると減少する傾向にあるが、実質的にはインターネットでの募集を勘案するとさらに多くの求人に接することができる状況にあると言える。

また、大阪薬科大学薬学部薬学科における最近5年間の就職率の実績は、平成26年度は就職希望者319人に対して就職者数279人、就職率は87.5%、平成27年度は就職希望者283人に対して就職者数262人、就職率は92.6%、平成28年度は就職希望者286人に対して就職者数277人、就職率は96.9%、平成29年度は就職希望者315人に対して就職者数302人、就職率は95.9%、平成30年度は就職希望者322人に対して就職者数298人、就職率は92.5%となっている。以上の数値は、薬剤師資格取得が採用条件となっている病院や公務員等において、薬剤師国家試験に不合格となり内定取消となった者を就職者数から除外して集計した結果である。【資料10：大阪薬科大学における過去5年間の就職状況（薬学科）】

このように、多数の求人を受け付け、高い就職率を維持していることは、厚生労働省発行の「労働市場分析レポート第35号」（平成26年5月30日）の報告とも一致する。同レポートにおいて、職業別に見た新規求人倍率の順位は、「医師･歯科医師･獣医･薬剤師」が10倍を超えており、他を引き離して第1位となっている。【資料11：労働市場分析レポート第35号　平成26 年5月30日（厚生労働省）】

また、薬剤師は大都市の中心部に偏在しており、当該地域の大病院や薬局では充足しているものの、それ以外の地域では大病院を含め、特に中小病院ではまだまだ薬剤師不足との声が大きい。【資料12：平成28年（2016）医師・歯科医師・薬剤師調査の概況（厚生労働省）】これら地方の地域医療に貢献する薬剤師の輩出要請に応えるために、大阪薬科大学では、鳥取県（平成30年4月）及び高知県（平成31年4月）と就職支援協定を締結し、連携して地方での薬剤師不足の解消に資する取り組みを行っており、これらの取組みは薬学部の設置後も継続・拡充することとしている。

＜薬科学科＞

薬学部には薬剤師養成のための6年制課程の他、薬学を究める研究者をはじめとして、薬学をもとにさまざまな分野で活躍する人材育成を行う役割を持つ4年制課程がある。大阪薬科大学薬学部においては、「健康、生命に関する有機的･総合的な知識を持つとともに、応用力、研究力を身に付けた薬学を基盤とする多様な分野で活躍できる人材の養成」を目的とする薬科学科を設置している。同学科の卒業生の多くはさらに専門知識を深め、研究能力を養うために、接続する大阪薬科大学大学院薬学研究科薬科学専攻博士前期課程に進学する。

このようなことから、薬科学科卒業生の進路は、大学院に進学する者と、薬学を基盤とする応用力･研究力を生かして就職する者に分かれている。

大阪薬科大学薬学部薬科学科における最近5年間の就職率の実績は、平成26年度は就職希望者1人に対して就職者数1人、就職率は100%、平成27年度は卒業者なし、平成28年度は就職希望者0人、平成29年度は就職希望者2人に対して就職者数2人、就職率は100%、平成30年度は就職希望者1人に対して就職者数1人、就職率は100%となっている。以上の通り、最近5年間における就職者合計数は4名、5年間の就職率平均は36.4%（大学院への進学希望者及び他学部への編入希望者を母数に含む）となっている。就職希望者以外の7人のうち6人は、大学院に進学しており、その比率は54.5%、医学部編入準備が1人でその比率は9.1%となっており、就職希望者は全員就職している。【資料13：大阪薬科大学における過去5年間の就職状況（薬科学科）】

薬科学科卒業生は薬剤師の資格を持たないが、薬科学を修め応用力、研究力を身に付けた人材として、多様な分野から採用の対象とされている。製薬関連企業では医薬品開発関連職種や製造･品質管理に関する技術職等として、また、ドラッグストア等からは非薬剤師としての求人、さらには化粧品業界等から幅広く技術･技能を持つ者として多数の求人があり、卒業生は希望する分野に就職している。

以上より、設置する薬学部薬学科及び薬科学科における人材需要は、医療系総合大学として社会から求められる人材を養成していくことでこの先も高く推移すると考えられ、卒業先の進路及び就職先の確保についても十分見込めるものであると言える。

学生確保の見通し等を記載した書類（薬学部）　資料目次

【資料 1】　一般社団法人全国高等学校 PTA 連合会・株式会社リクルートマーケティングパートナーズ合同調査第 8 回「高校生と保護者の進路に関する意識調査」2017 年報告書

【資料 2】　私立薬科大学（薬学部）入学志願者数等調（一般社団法人　日本私立薬科大学協会）

【資料 3】　近隣薬科大学の学部設置状況並びに定員充足状況

【資料 4】　大阪薬科大学における過去 6 年間の入試状況

【資料 5】　リクルート進学総研マーケットリポート Vol.70 2019 年 11 月号「18 歳人口予測　大学・短期大学・専門学校進学率　地元残留率の動向」

【資料 6】　大学進学時の都道府県別流入・流出者数（文部科学省）

【資料 7】　2019 年（平成 31 年・令和元年）度の入学試験・6 年制学科生の修学状況（一般社団法人　日本私立薬科大学協会）

【資料 8】　リクルート カレッジマネジメント 218 / Sep. - Oct. 2019「特集　進学ブランド力調査 2019」

【資料 9】　大阪府薬剤師会、大阪府病院薬剤師会等の要望書

【資料 10】　大阪薬科大学における過去 5 年間の就職状況（薬学科）

【資料 11】　労働市場分析レポート第 35 号　平成 26 年 5 月 30 日（厚生労働省）

【資料 12】　平成 28 年（2016）医師・歯科医師・薬剤師調査の概況（厚生労働省）

【資料 13】　大阪薬科大学における過去 5 年間の就職状況（薬科学科）

＜抜粋版＞

2018年2月

一般社団法人全国高等学校PTA連合会・株式会社リクルートマーケティングパートナーズ 合同調査

第8回
「高校生と保護者の進路に関する意識調査」
2017年
報告書

少子高齢化・人口減やグローバル化や情報化の進展などに伴う急激な社会変化の中で、高校生の進路観の育成、進路先の決定における保護者の関わりがますます重要になっています。行政、学校教育はむろんですが、高校生にとって最も身近な大人である「保護者」ができることはなんでしょうか。

高校生と保護者の進路をめぐる意識と行動の実態を調べ、両者のよりよい意思疎通のあり方を研究するとともにその成果を広く社会に提言することを目的に、一般社団法人全国高等学校ＰＴＡ連合会と株式会社リクルートマーケティングパートナーズは、全国の高校生をもつ保護者とその子どもに対して、コミュニケーションの実態と様々な進路観に関するアンケート調査を2003年より隔年で実施してまいりました。その8回目となる調査の分析結果をまとめましたので、ここにご報告申し上げます。

一般社団法人全国高等学校ＰＴＡ連合会
会長　牧田和樹
進路対策委員長　渡辺正和

株式会社リクルートマーケティングパートナーズ
まなび事業本部長　山口文洋

▼本調査や「キャリアガイダンス」に関するお問い合わせ▼

㈱リクルートマーケティングパートナーズ　リクルート進学総研

http://souken.shingakunet.com/

※ この調査結果については、キャリア教育専門誌『キャリアガイダンス』Vol.421(リクルート)にも掲載しています。

※ 出版・印刷物等へデータ転載する際には、“一般社団法人全国高等学校PTA連合会・(株)リクルートマーケティングパートナーズ調べ”と付記していただきますようお願い申し上げます。

調査結果トピックス

Ⅰ 親子コミュニケーションの実態

■ 進路について親子で「話す」割合は、高校生は79%、保護者は89%。保護者は話しているとの認識が高校生より高い。

・高校2年生の時点で、卒業後の進路について保護者との対話頻度は「よく話をする」高校生は18%、「話す・計」で79%。一方、保護者の「話す・計」は89%であり、高校生よりも保護者のほうが「話している」認識が高い。【5ページ】

■ 高校生・保護者とも、85%が進路選択について「高校生自身で決めたい・決めてほしい」。

・進路選択について、高校生は「保護者の意見を少し参考にしながら、自分自身で決めたい」が54%。「できるだけ自分の意思や考えだけで決めたい」(31%)を合わせると、「自分自身・計」は85%。一方、保護者は「保護者の意見を少し参考にしながら、お子さん自身で決めてほしい」(66%)は高校生を上回るが、「子ども自身・計」の割合は高校生と同程度(85%)。【19ページ】

Ⅱ 進路・将来にまつわる考え

■ 高校生・保護者とも進路に関して「役立つ資格」「収入や雇用が安定している仕事」「手に職」を望んでいる。

・進路に関する価値観について、「将来は役立つ資格を身につけたい/つけてほしい」「収入や雇用が安定している仕事をしたい/してほしい」「将来は手に職をつけて仕事をしたい/つけてほしい」の3項目が上位に挙がり、いずれも「そう思う・計」の割合が高校生と保護者ともに約8～9割に達する。【25～26ページ】

■ 貸与型奨学金を「利用したい」割合は、高校生は32%、保護者は41%。保護者の利用意向が高校生に比べ高い。保護者の74%が、家庭の経済事情が子どもの進路決定に「影響がある」。

・貸与型奨学金制度の利用意向について、「ぜひ利用したい」高校生は9%、「利用したい・計」で32%、「考えたことがないのでわからない」が最も多く46%。一方、保護者は子どもに「ぜひ利用してほしい」が14%、「利用してほしい・計」は41%、「考えたことがないのでわからない」は24%。保護者の31%が家庭の経済事情は子どもの進路決定に「非常に影響がある」。「ある程度影響がある」を含む「影響がある・計」は74%。【32～35ページ】

Ⅲ 進路にまつわる期待と不安

■ 進路を考えるとき、高校生の72%が「不安」。進路について親子で話す高校生は、「楽しい」が相対的に高く、前向き。

・高校生の進路を考えるときの気持ちは「不安な気持ち」「どちらかというと不安」あわせて72%が不安を感じている。一方、「楽しい・計」は23%。進路対話頻度別にみると、話す層は話さない層に比べ「楽しい・計」の割合が高く、進路を考えることに前向きな姿勢がみられる。【37ページ】

■ 未来社会について、高校生・保護者とも2013年以降「好ましい」(高校生は52%・保護者は34%)認識が増加。

・これからの社会について「とても好ましい」「まあまあ好ましい」と感じている高校生は52%、保護者は34%。2013年以降、高校生・保護者とも「好ましい」という回答が漸増傾向であり、肯定的な認識に転じつつある。

・高校生が「好ましい」と思う理由としては、「AI発達による職業・雇用の喪失」「少子高齢化」を危惧する反面、「選択肢が多い」「若い人材が必要とされる」といった自分の努力しだいで未来を実現できるとする前向きな回答が挙がった。【42～43ページ】

Ⅳ 保護者の動き

■ 進学先検討で重要な情報は、「進学費用」「現在の入試制度の仕組み」「将来の職業との関連」「学部・学科の内容」「就職の状況」。そのうち、「入試制度」「将来の職業との関連」「就職の状況」の取得率は2～3割程度に留まる。

・子どもの進学を希望する保護者に、重要だと思う進学情報を最大5項目まで選んでもらったところ、「進学費用」「現在の入試制度の仕組み」「将来の職業との関連」「学部・学科の内容」「就職の状況」が上位に挙がった。

・これら上位の進学情報の内、「学部・学科の内容」「進学費用」については重要視する保護者の4割が取得済み。一方、「現在の入試制度の仕組み」「将来の職業との関連」「就職の状況」の取得率は2～3割程度に留まり、重要視する進学情報を充分に取得できていないことがわかる。【46～47ページ】

Ⅴ 学校での教育

■『社会人基礎力』のうち、将来必要とされるが現在は不足している高校生の能力は、「主体性」「実行力」「発信力」。

・経済産業省で定義されている『社会人基礎力』:3つの能力(12の能力要素)について、「将来必要とされる能力」を3つまで高校生に選んでもらったところ「主体性」(53%)、「実行力」(40%)、「発信力」(38%)が挙がった。同様に「現在持っている能力」について尋ねたところ、「傾聴力」(39%)、「規律性」(37%)、「柔軟性」(27%) が挙がった。
高校生が考える「将来必要とされるが、現在は不足している能力」は、「主体性」「発信力」「実行力」で必要−現状の差が顕著。

・保護者にも尋ねた結果、子どもに現在不足している能力は同様に「主体性」「実行力」「発信力」だった。【52～53ページ】

Ⅵ 家庭での教育

■ 保護者は、日常のコミュニケーション・行動で「意見を尊重」「『自分で選択し責任をもつ』ことが大切だと言う」「励ます」を7割以上が実践していると自己評価したが、高校生の実感は下回る。保護者が思うほど子どもに伝わっていない。

・高校生・保護者のそれぞれに日常のコミュニケーション・行動について12項目を呈示し、各実施状況を尋ねたところ、高校生・保護者とも「意見が尊重される・意見を尊重している」がトップに挙がったが、保護者の自己評価(76%)と高校生の実感(66%)のスコアには大きな差がある。保護者の自己評価上位の項目はいずれも高校生を上回っており、保護者が実践しているコミュニケーション・行動は、保護者が思うほど子どもに伝わっていない。【56ページ】

Ⅷ グローバル化社会・AIの普及発達に対する高校生と保護者の意識

**■ 高校生の将来への社会・経済のグローバル化の影響は、高校生の55%・保護者の48%が「ある」。
AI(人工知能)などの普及・発達の高校生の将来への影響は、高校生の52%・保護者の39%が「ある」。
社会的環境の変化の影響について、高校生は保護者以上に強く捉えている。**

・高校生の将来に社会・経済のグローバル化の影響が「ある」と思う高校生は55%、保護者は48%。

・同様に、AI(人工知能)などの普及・発達の影響について「ある」と思う高校生は52%・保護者は39%。高校生の影響への認識が保護者を大きく上回る。【67ページ・71ページ】

調査概要・回答者プロフィール

▶調査概要

●調査実施者　一般社団法人全国高等学校PTA連合会 ／ 株式会社リクルートマーケティングパートナーズ

●調査対象　全国の高校2年生とその保護者
全国高等学校PTA連合会より依頼した9都道府県の公立高等学校26校
2年生2クラス分の高校生と保護者

●調査期間　2017年9月15日～10月26日

●調査方法　学校を通した質問紙による自記式調査
①高校生：ホームルームにてアンケートに回答
②保護者：高校生から保護者へアンケートを手渡し
③学級担任が高校生と保護者分を取りまとめ、その後学校責任者が学校分として返送

●有効回答数　高校生1,987人 ※全問無回答1人を除く
保護者1,722人 ※全問無回答11人を除く

▶回答者プロフィール

【高校生】

●性別　男子53.5%　女子44.8%（無回答1.7%）

●所属学科　普通科75.7%　専門学科20.4%　総合学科3.8%

●地域分布　北海道11.9%　岩手県4.0%　福島県6.5%　群馬県11.6%　東京都11.6%　長野県8.8%　岐阜県11.9%
大阪府6.7%　和歌山県3.9%　岡山県11.1%　長崎県12.1%

●高校卒業後の希望進路
大学進学67.2%　短大進学2.8%　専門職大学進学0.5%　専門学校進学10.2%
海外の大学等への進学0.2%　就職16.8%　パート・アルバイト0.1%　その他0.8%（無回答1.6%）

【保護者】

●続柄　父親12.8%　母親84.1%　その他0.8%（無回答2.3%）

●子どもの性別　男子51.7%　女子45.7%（無回答2.6%）

●所属学科　普通科 75.7%　専門学科 20.3%　総合学科3.9%

●地域分布　北海道11.9%　岩手県4.5%　福島県5.4%　群馬県12.0%　東京都9.4%　長野県8.3%　岐阜県13.0%
大阪府5.3%　和歌山県4.5%　岡山県12.0%　長崎県13.7%

●子どもの高校卒業後の希望する進路
大学進学59.3%　短大進学2.0%　専門職大学進学0.4%　専門学校進学7.5%
海外の大学等への進学0.1%　就職10.3%　その他0.3%
子どもが希望する進路なら何でもいい18.5%（無回答1.6%）

【注】

※第6回調査(2013年)は、2013年9～10月に全国の高校2年生とその保護者を対象に実施
（有効回答数：高校生2,043人／保護者1,696人）
※第7回調査(2015年)は、2015年9～10月に全国の高校2年生とその保護者を対象に実施
（有効回答数：高校生1,887人／保護者1,584人）

※報告書内の表記について
－グラフの数値は、小数点第2位以下を四捨五入して表示している
－本文の数値は、グラフ中の数値の小数点第1位を四捨五入して記載している
－<フリーコメント>末尾カッコ内は以下の属性を表す
高校生：[都道府県/性別/希望進路]
保護者：[都道府県/続柄/子どもの性別/希望進路]

18. 将来就きたい・就いてほしい職業／その理由

1）高校生が将来就きたい職業

▶高校生の55%が就きたい職業が「ある」。

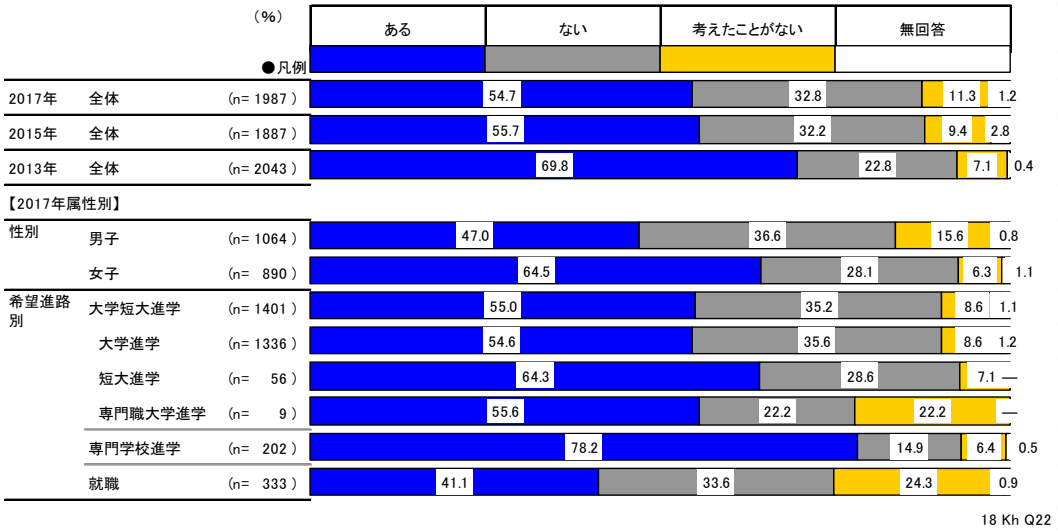
▶就きたい職業のトップは「教師」。以下、「公務員」「看護師」など国家資格が必要な職業が上位。男子は「公務員」「製造業」「教師」、女子は「看護師」「教師」「保育士・幼稚園教諭・幼児保育関連」が人気。

- 高校生に将来就きたい職業はあるか尋ねたところ、「ある」が半数強(55%)。
- 性別にみると、「ある」の割合は女子(65%)が男子(47%)を大きく上回る。女子の過半数が将来就きたい職業を決めている。
- 具体的に就きたい職業は、「教師」が最も多く、「公務員」「看護師」「製造業(自動車・造船など)」が続く。
- 男子は、「公務員」が最多。以下「製造業(自動車・造船など)」「教師」「医師・歯科医師・獣医」「エンジニア・プログラマー・IT関連」。

  女子は、「看護師」が最多。以下「教師」「保育士・幼稚園教諭・幼児保育関連」「公務員」「薬剤師」。

→フリーコメントは31ページに掲載

【高校生】 将来、就きたい職業があるか（全体／単一回答）



【高校生】就きたい職業ランキング （就きたい職業が「ある」・職業回答者／自由回答）

(%)

全体

順位	職業	(n=1045)
1	教師	10.5
2	公務員	10.2
3	看護師	7.9
4	製造業（自動車・造船など）	7.0
5	医師・歯科医師・獣医	5.6
6	保育士・幼稚園教諭・幼児保育関連	5.3
7	薬剤師	4.3
8	技術者・研究者	3.3
9	建築士・建築関連	3.2
10	美容師・理容師・ヘアメイクアーティスト・エステティシャン・美容関連	3.1
11	エンジニア・プログラマー・ＩＴ関連	2.9
12	画家・イラストレーター・アニメーター・ＣＧデザイナー・芸術・ゲーム関連	2.6
13	放射線技師・臨床検査技師	2.5
14	管理栄養士・栄養士	2.4
15	理学療法士・作業療法士・言語聴覚士・リハビリ	2.1
16	調理師・シェフ・パティシエ・フード関連	2.0
17	社会福祉士・介護福祉士・福祉関連	1.8
	俳優・アイドル・ミュージシャン・声優・芸能関連	1.8
	会社員	1.8
20	ジャーナリスト・編集者・ライター	1.6

男子

順位	職業	(n= 480)
1	公務員	16.0
2	製造業（自動車・造船など）	14.0
3	教師	12.1
4	医師・歯科医師・獣医	7.1
5	エンジニア・プログラマー・ＩＴ関連	5.4
6	技術者・研究者	5.2
7	建築士・建築関連	4.6
8	薬剤師	4.0
9	画家・イラストレーター・アニメーター・ＣＧデザイナー・芸術・ゲーム関連	2.7
10	放射線技師・臨床検査技師	2.1

女子

順位	職業	(n= 554)
1	看護師	13.7
2	教師	9.0
	保育士・幼稚園教諭・幼児保育関連	9.0
4	公務員	5.2
5	薬剤師	4.7
6	医師・歯科医師・獣医	4.5
7	管理栄養士・栄養士	4.0
	美容師・理容師・ヘアメイクアーティスト・エステティシャン・美容関連	4.0
9	放射線技師・臨床検査技師	2.9
10	社会福祉士・介護福祉士・福祉関連	2.5
	臨床心理士・心理カウンセラー・スクールカウンセラー・心理関連	2.5

2) 保護者が子どもに将来就いてほしい職業

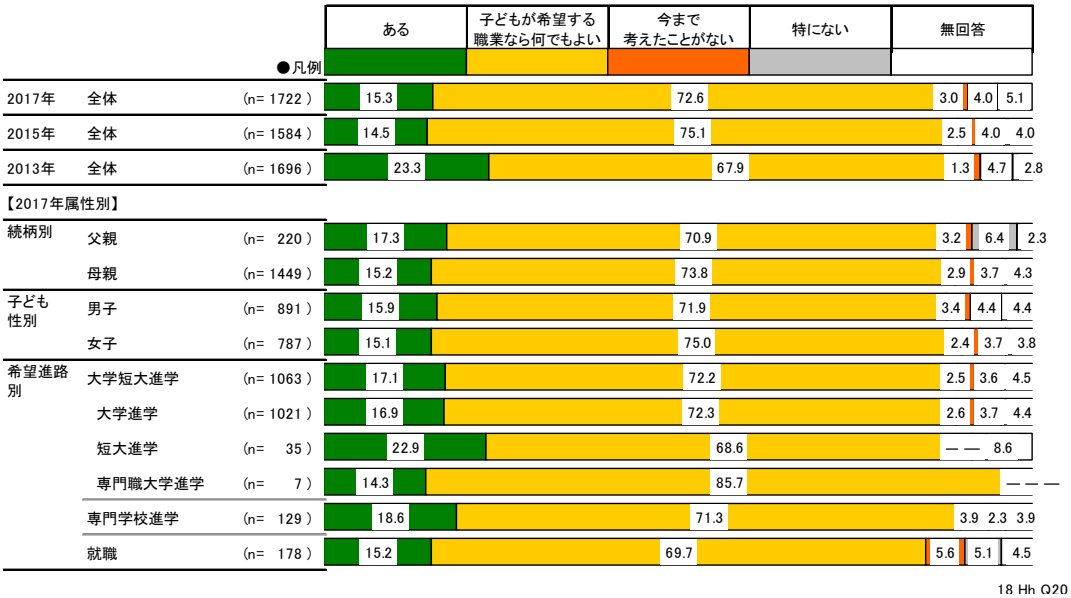
▶保護者の15%が子どもに就いてほしい職業が「ある」。73%が「子どもが希望する職業なら何でもよい」。

▶就いてほしい職業は「公務員」が突出。以下「看護師」「医療事務・医療関連」「医師・歯科医師・獣医」「教師」「薬剤師」など雇用が安定したイメージがある職業や医療系の職種が上位。

- 保護者に子どもに将来就いてほしい職業はあるか尋ねたところ、「子どもが希望する職業なら何でもよい」(73%)が過半数を占める。就いてほしい職業が「ある」は15%。
- 具体的に就いてほしい職業を尋ねたところ、「公務員」が突出。次いで「看護師」「医療事務・医療関連」「医師・歯科医師・獣医」「教師」「薬剤師」が続く。
- 男子の保護者では、「公務員」が突出。以下「医師・歯科医師・獣医」「医療事務・医療関連」「教師」「製造業(自動車・造船など)」が続く。
  女子の保護者では、「看護師」が突出。以下「公務員」「医療事務・医療関連」「薬剤師」「医師・歯科医師・獣医」。

→フリーコメントは31ページに掲載

【保護者】 将来、子どもに就いて欲しい職業はあるか（全体／単一回答）



【保護者】就いてほしい職業 （就いてほしい職業がある・職業回答者／自由回答）

(%)

全体

順位	職業	(n= 241)
1	公務員	32.0
2	看護師	12.9
3	医療事務・医療関連	9.5
4	医師・歯科医師・獣医	8.7
5	教師	5.8
	薬剤師	5.8
7	製造業（自動車・造船など）	3.7
	技術者・研究者	3.7
9	社会福祉士・介護福祉士・福祉関連	2.1
10	保育士・幼稚園教諭・幼児保育関連	1.7
	管理栄養士・栄養士	1.7
	調理師・シェフ・パティシエ・フード関連	1.7
13	放射線技師・臨床検査技師	1.2
	保健師	1.2
	理学療法士・作業療法士・言語聴覚士・リハビリ	1.2
	空港職員・航空関連	1.2
	鉄道関連	1.2
	ホテル・旅館・旅行関連	1.2
	会社員	1.2
20	学校職員	0.8
	助産師	0.8
	エンジニア・プログラマー・ＩＴ関連	0.8
	建築士・建築関連	0.8
	社長・経営者・起業家	0.8

子どもの性別：男子

順位	職業	(n= 129)
1	公務員	44.2
2	医師・歯科医師・獣医	11.6
3	医療事務・医療関連	8.5
4	教師	7.0
5	製造業（自動車・造船など）	6.2
6	技術者・研究者	5.4
7	薬剤師	4.7
8	看護師	2.3
	鉄道関連	2.3
	調理師・シェフ・パティシエ・フード関連	2.3

子どもの性別：女子

順位	職業	(n= 110)
1	看護師	24.5
2	公務員	17.3
3	医療事務・医療関連	10.9
4	薬剤師	7.3
5	医師・歯科医師・獣医	5.5
6	教師	4.5
7	保育士・幼稚園教諭・幼児保育関連	3.6
	管理栄養士・栄養士	3.6
9	保健師	2.7
	社会福祉士・介護福祉士・福祉関連	2.7

<フリーコメント> 将来就きたい職業の理由【高校生】

■教師

○自分を育て、指導してくれた先生のようになりたいと思ったから。
[岩手県/男子/大学]

教えることが好き。大変な分やりがいや達成感があると思う。
[北海道/女子/大学]

○身近で安定していて忙しそうだがやりがいがありそうだから。
[東京都/男子/大学]

○今までたくさんの先生方に支えられた。今度は自分が生徒の力になりたいと思うから。[岡山県/女子/大学]z

○人の夢を育てる、すばらしい職業だと思うから。[長崎県/男子/大学]

■公務員(国家・地方、警察官・消防士・自衛官など)

○本当にやりたいこと(趣味を超えて)をするために、時間とお金が必要だから。[北海道/男子/大学]

○収入が安定しているし、子育てにも協力的で安心して生活ができそうだから。[福島県/女子/大学]

○社会を支えていけるような仕事に就きたいため。
[和歌山県/男子/大学]

○地域活生化に貢献するため。[福島県/男子/大学]

○命救助は勇気もいるし、身の危険もあり大変なのはわかるがやりがいはあると思うから。[長野県/男子/大学]

■看護師

○母が看護師だから。小さい頃からの夢だから。
[北海道/女子/専門学校]

○いつまでも働けるし、人と関わるのが好きだし、看護の分野に興味があるから。[東京都/女子/専門学校]

○就職するときに、正社員で雇ってくれる所が多いから。安定しているから。人の役に立ちたい。資格をとっていた方が、これからの時代はいいから。[長崎県/女子/大学]

○医療に興味があるし、安定しているから。[//]

■製造業(自動車・造船など)

○自分が小さい頃からずっとあこがれていた職業で、人の役にも立てるし、今後どんな事があっても車はなくならないから。
[長野県/男子/専門学校]

○物を作ったりすることが好きで、部品などを作りたいと思ったから。
[長崎県/男子/就職]

○流れ作業だから、勉強とかが苦手だから合っていると思った。
[群馬県/女子/就職]

■医師・歯科医師・獣医

○安定していて、なおかつ高収入だから。大変な仕事だと思うので、生活にハリが出ると思うから。[//]

○人のために自分が役立っていることを自覚できるから。金銭面でも親に恩返しができそうだから。[岩手県/男子/大学]

○自分がサッカーをやっている縁でスポーツで負傷した人の診察をしたいから。あこがれたから。[岩手県/男子/大学]

■保育士・幼稚園教諭・幼児保育関連

○子供が好きで、子供とかかわれる仕事をしたいから。誰かの役に立ちたいから。[長野県/女子/大学]

○小さい頃から小さい子が好きで、保育体験に行った時に、保育士をずっとやれたら嬉しいと思ったから。[東京都/女子/短期大学]

○子供が好きだし、今、人が足りていないから。[群馬県/女子/専門学校]

■薬剤師

○昔から医療関係の仕事に就きたかった。病気を治す手助けをしたい。給料が安定している。[北海道/女子/大学]

○小さい時に体が弱くよく薬を使っていたので、自分が救う側になりたいから。[長崎県/男子/大学]

○薬のことを勉強して、開発などもしたいし、薬を使って病気で苦しんでいる人の役に立ちたいから。[長崎県/女子/大学]

<フリーコメント> 将来就いてほしい職業の理由【保護者】

■公務員(国家・地方、警察官・消防士・自衛官など)

○安定した職業であり、国や地方が潰れる事は滅多にないので。
[岡山県/母親/男子/大学]

○子供が自分の将来の事を考えて、安定した職業だと、言ったから。
[北海道/母親/男子/専門学校]

○女性が働き続けるための環境が整っていることが多いから。
[長崎県/母親/女子/大学]

○責任感があり、スポーツをずっとしてきているので、体力もあり、向いていると思うから。[長野県/母親/男子/専門学校]

■看護師

○人を助ける職業に就きたいと言っていたので、大変だけれど、やりがいもあり、また高収入で安定していると思うから。
[岐阜県/母親/男子/その他]

○子供は小さい頃から人の役に立つ仕事、やりがいのある仕事、医療に関する事、どんな仕事かは、はっきりしないが言葉にして話していましたので、やりたい仕事を一番して欲しいです。自分の人生だから。
[長崎県/母親/女子/その他]

○女性として、働きがいのある、年齢、状況に合わせた働き方ができる。子どももやってもよいと考えているから。[岐阜県/母親/女子/大学]

○資格があれば再就職もできる可能性が高く、いくつになっても働くことができるので[東京都/母親/女子/大学]

■医療事務・医療関連

○本人も医療職を希望しているので、又、専門職であるため、人の健康維持に取り組んで充実感を得る事ができる。
[岩手県/母親/男子/大学]

○私自身も看護師で、手に職をつけておいて良かったと思うから。
[岡山県/母親/女子/専門学校]

○安定している。資格を取れる・活かせる。[長崎県/母親/女子/大学]

○いつまでも働けるから[岡山県/母親/女子/大学]

■医師・歯科医師・獣医

○父が医師なので、同業者として悩みを受けとめやすいしどのような苦労も人のために、自分の糧になるわかりやすい仕事だと思うから。
[北海道/母親/男子/大学]

○社会的に安定し、尚、人の役に立つ職業に就いてほしいから。
[和歌山県/母親/男子/大学]

■教師

○本人が希望しているし、人と関わりを持つ中で自己有用感を抱くことも出来ると思うから。[岡山県/母親/女子/大学]

○安定しているから又親が教員をしているから。
[東京都/母親/男子/大学]

■薬剤師

○国家試験に合格し、医薬品の調合、供給、その他の薬事衛生に携わる人になってもらいたい。[福島県/母親/女子/大学]

○資格を持って、長く働いて欲しいと思うから。
[岩手県/母親/女子/大学]

■製造業(自動車・造船など)

○せっかく資格を取得したのでそれをいかしてほしい。
[大阪府/母親/男子/何でもいい]

○人の生活を発展させたり、役に立つものをつくることは、夢のある仕事だから。またそれを、チームで開発していくことで人間としても成長できるから。[長崎県/母親/男子/大学]

■技術者・研究者

○科学技術の進歩に関るような仕事をしてもらいたい。
[群馬県/母親/男子/大学]

○子供が望んでいるから　ノルマに左右されずにアカデミックな分野で活躍してほしいから。[長野県/母親/男子/大学]

私立薬科大学(薬学部)入学志願者数等調 (志願者・合格者・入学者 等) (平成31年4月1日 現在)

【 6年制 】

一般社団法人 日本私立薬科大学協会

大学名	入学定員 (A)	入学志願者総数	合格者数 一般	推薦	センター	その他	計	入学者数 (B)	倍率 B／A	備考
	名	名	名	名	名	名	名	名	倍	
北海道医療大学	160	727	185	45	172	25	427	165	1.03	
北海道科学大学	180	995	352	65	188	15	620	189	1.05	
青森大学	70	114	26	23	23	10	82	54	0.77	
岩手医科大学	120	183	82	21	35	2	140	48	0.40	
東北医科薬科大学	300	1,009	285	127	147		559	305	1.01	
医療創生大学	90	397	181	20	165	2	368	57	0.63	
奥羽大学	140	244	90	41		33	164	101	0.72	
国際医療福祉大学	180	990	360	26	53	10	449	186	1.03	
高崎健康福祉大学	90	431	108	33	52	1	194	95	1.05	
城西大学	250	1,317	390	45	284	2	721	227	0.90	
日本薬科大学	260	1,313	456	64	111	98	729	250	0.96	
城西国際大学	130	419	160	18	110	21	309	101	0.77	
千葉科学大学	120	289	123	10	114	16	263	61	0.50	
帝京平成大学	240	2,386	380	22	59	88	549	210	0.87	
北里大学	260	2,176	314	126	100	2	542	273	1.05	
慶應義塾大学	150	1,653	303	48			351	151	1.00	
昭和大学	200	1,754	290	56	87		433	200	1.00	
昭和薬科大学	240	2,541	333	158	294		785	248	1.03	
帝京大学	320	3,221	519	4	5	77	605	364	1.13	
東京薬科大学	420	2,821	374	281	106	54	815	414	0.98	
東京理科大学	100	2,155	254	23	275		552	82	0.82	
東邦大学	220	1,900	240	86	204	4	534	239	1.08	
日本大学	244	1,875	407	133	51	5	596	261	1.06	
星薬科大学	260	3,382	345	164	235		744	301	1.15	
武蔵野大学	160	3,550	44	56	145	134	379	140	0.87	
明治薬科大学	300	3,208	261	201	158		620	308	1.02	
横浜薬科大学	340	2,929	479	160	107	51	797	366	1.07	
新潟薬科大学	180	360	131	45	134		310	132	0.73	
北陸大学	200	532	246	22	214	2	484	127	0.63	
愛知学院大学	145	1,243	154	81	304		539	145	1.00	
金城学院大学	150	904	245	92	152		489	150	1.00	
名城大学	265	2,240	809	58	119		986	258	0.97	
鈴鹿医療科学大学	100	454	192	65	130		387	106	1.06	
京都薬科大学	360	2,491	447	133	407		987	366	1.01	
同志社女子大学	120	1,035	153	126	30		309	123	1.02	
立命館大学	100	1,372	322	39	80		441	84	0.84	
大阪大谷大学	140	474	117	146	60		323	134	0.95	
大阪薬科大学	294	2,279	405	261	188	2	856	311	1.05	
近畿大学	150	4,587	351	172	108	2	633	154	1.02	
摂南大学	220	4,784	831	512	140	3	1,486	219	0.99	
神戸学院大学	250	2,786	695	352	73	15	1,135	256	1.02	
神戸薬科大学	270	2,696	378	205	201		784	287	1.06	
姫路獨協大学	100	156	48	43	23		114	30	0.30	
兵庫医療大学	150	715	240	195	39	13	487	152	1.01	
武庫川女子大学	210	1,766	318	331	19		668	196	0.93	
就実大学	120	394	234	60	29		323	94	0.78	
広島国際大学	120	412	197	49	47		293	72	0.60	
福山大学	150	369	142	28	49	13	232	108	0.72	
安田女子大学	120	505	171	38	126	3	338	84	0.70	
徳島文理大学	180	252	83	53	56	10	202	72	0.40	
〃 香川薬学部	90	146	33	27	65	6	131	40	0.44	
松山大学	100	345	148	27	106		281	93	0.93	
第一薬科大学	173	455	135	24	80	148	387	147	0.84	
福岡大学	230	2,936	464	67	149		680	231	1.00	
長崎国際大学	120	539	148	22	113	17	300	123	1.02	
崇城大学	120	1,637	388	58	131		577	132	1.10	
九州保健福祉大学	100	353	158	29	142	4	333	90	0.90	
計	10,571	83,196	15,724	5,416	6,794	888	28,822	9,912	0.93	

【 4年制 】

大学名	入学定員 (A)	入学志願者総数	合格者数 一般	推薦	センター	その他	計	入学者数 (B)	倍率 B／A	備考
	名	名	名	名	名	名	名	名	倍	
東北医科薬科大学	40	74	21	3	24		48	15	0.37	
城西大学	50	275	48	28	52		128	52	1.04	
日本薬科大学	90	322	55	77	10	12	154	103	1.14	
北里大学	35	356	114	5	25		144	35	1.00	
慶應義塾大学	60	639	229	2		1	232	61	1.01	
東京理科大学	100	1,278	289	13	196		498	95	0.95	
星薬科大学	20	346	47	12	66		125	21	1.05	
明治薬科大学	60	662	134	17	100		251	66	1.10	
横浜薬科大学	30	261	82	8	20	6	116	32	1.06	
立命館大学	60	536	144	13	55	10	222	61	1.01	
近畿大学	40	991	157	34	52	4	247	38	0.95	
武庫川女子大学	40	194	52	44	9		105	34	0.85	
九州保健福祉大学	40	61	27	9	20		56	18	0.45	
計	665	5,995	1,399	265	629	33	2,326	631	0.94	

(注)

1.「医療創生大学」は平成30年度まで「いわき明星大学」

2. 入学定員の変更

○ 6年制 3大学

・青森大学 90名→70名(20名 減)

・北陸大学 220名→200名(20名 減)

・九州保健福祉大学 140名→100名(40名 減)

○ 4年制 1大学

・千葉科学大学:35名は、募集停止(35名減)

3. 灰色の箇所が変更等箇所となります。

近隣薬科大学の学部設置状況並びに定員充足状況

設置区分	大学	学部	学科※	2014	2015	2016	2017	2018	2019
				入学定員※					
				平成26年度（25年度実施）	平成27年度（26年度実施）	平成28年度（27年度実施）	平成29年度（28年度実施）	平成30年度（29年度実施）	平成31年度（30年度実施）
私立	大阪薬科大学	薬	薬・（薬科）	300	300	300	300	294	294
私立	京都薬科大学	薬	薬	360	360	360	360	360	360
私立	神戸薬科大学	薬	薬	270	270	270	270	270	270
合計				930	930	930	930	924	924

設置区分	大学	学部	学科※	入学者数※					
				平成26年度（25年度実施）	平成27年度（26年度実施）	平成28年度（27年度実施）	平成29年度（28年度実施）	平成30年度（29年度実施）	平成31年度（30年度実施）
私立	大阪薬科大学	薬	薬・（薬科）	303	311	316	306	307	311
私立	京都薬科大学	薬	薬	378	372	369	373	407	366
私立	神戸薬科大学	薬	薬	299	276	276	307	268	287
合計				980	959	961	986	982	964

設置区分	大学	学部	学科	入学定員充足率					
				平成26年度（25年度実施）	平成27年度（26年度実施）	平成28年度（27年度実施）	平成29年度（28年度実施）	平成30年度（29年度実施）	平成31年度（30年度実施）
私立	大阪薬科大学	薬	薬・（薬科）	101.0%	103.7%	105.3%	102.0%	104.4%	105.8%
私立	京都薬科大学	薬	薬	105.0%	103.3%	102.5%	103.6%	113.1%	101.7%
私立	神戸薬科大学	薬	薬	110.7%	102.2%	102.2%	113.7%	99.3%	106.3%
合計				105.4%	103.1%	103.3%	106.0%	106.3%	104.3%

設置区分	大学	学部	学科※	募集人員※					
				平成26年度（25年度実施）	平成27年度（26年度実施）	平成28年度（27年度実施）	平成29年度（28年度実施）	平成30年度（29年度実施）	平成31年度（30年度実施）
私立	大阪薬科大学	薬	薬・（薬科）	300	300	300	300	294	294
私立	京都薬科大学	薬	薬	360	360	360	360	360	360
私立	神戸薬科大学	薬	薬	270	270	270	270	270	270
合計				930	930	930	930	924	924

設置区分	大学	学部	学科※	志願者数※					
				平成26年度（25年度実施）	平成27年度（26年度実施）	平成28年度（27年度実施）	平成29年度（28年度実施）	平成30年度（29年度実施）	平成31年度（30年度実施）
私立	大阪薬科大学	薬	薬・（薬科）	3,561	2,967	2,902	2,673	2,511	2,279
私立	京都薬科大学	薬	薬	3,118	2,687	2,453	2,521	2,475	2,491
私立	神戸薬科大学	薬	薬	3,783	3,743	3,147	3,270	2,960	2,696
合計				10,462	9,397	8,502	8,464	7,946	7,466

設置区分	大学	学部	学科※	志願倍率					
				平成26年度（25年度実施）	平成27年度（26年度実施）	平成28年度（27年度実施）	平成29年度（28年度実施）	平成30年度（29年度実施）	平成31年度（30年度実施）
私立	大阪薬科大学	薬	薬・（薬科）	11.9	9.9	9.7	8.9	8.5	7.8
私立	京都薬科大学	薬	薬	8.7	7.5	6.8	7.0	6.9	6.9
私立	神戸薬科大学	薬	薬	14.0	13.9	11.7	12.1	11.0	10.0
合計				11.2	10.1	9.1	9.1	8.6	8.1

※入学定員、入学者数、募集人員、志願者数は、各大学ホームページ、一般社団法人日本私立薬科大学協会発行「日本私立薬科大学協会だより」を参照して記載。

大阪薬科大学　平成29年度入試(28年度実施)まで6年制薬学科(270名)・4年制薬科学科(30名)計300名一括募集。

平成30年度(29年度実施)から4年制薬科学科を廃止、6年制薬学科のみ294名。

大阪薬科大学における過去6年間の入試状況

項目	2014 平成26年度 （25年度実施）	2015 平成27年度 （26年度実施）	2016 平成28年度 （27年度実施）	2017 平成29年度 （28年度実施）	2018 平成30年度 （29年度実施）	2019 平成31年度 （30年度実施）
入学定員（A）	300	300	300	300	294	294
志願者（B）	3,561	2,967	2,902	2,673	2,511	2,279
志願倍率（B/A）	11.9	9.9	9.7	8.9	8.5	7.8
合格者	728	845	806	854	887	856
入学定員（A）	300	300	300	300	294	294
入学者	303	311	316	306	307	311
入学定員充足率	101.0%	103.7%	105.3%	102.0%	104.4%	105.8%

編入学試験（H29年度(28年度実施)まで実施）を除く

18歳人口予測
大学・短期大学・専門学校進学率
地元残留率の動向

【将来予測　2019～2031年（男女別は、2019年~2030年）】

▶18歳人口予測　P3～P8

・2019年117.5万人→2031年103.3万人(14.2万人減少)
・特に2023～2024年の1年で3.5万人と大きく減少する
・減少率が高いのは東北(2019年比77.3%) 、減少数が大きいのは近畿(28,979人減)

【経過推移　2009年～2018年　(地元残留率は2010～2019年) 】

▶進学率(現役・過年度含)の推移　P9～P15

大学進学率(現役)
・2009年47.3%→2018年49.7%(2.4ポイント上昇
・上昇率が高いのは、1位北海道(114.2) 、2位東北(109.7) 、3位九州沖縄(106.5) ※
・進学率が高いのは、南関東、近畿、東海の三大都市圏

短期大学進学率(現役)
・2009年6.2%→2018年4.6%(1.6ポイント低下)
・低下率が高いのは、1位南関東(64.7) 、2位中国(65.7) 、3位近畿(68.9)※
・進学率が高いのは、北陸、甲信越、四国

専門学校進学率(現役)
・2009年14.7%→2018年15.9%(1.2ポイント上昇)
・上昇率が高いのは、1位東海(113.6)、2位近畿(113.4)、3位南関東(113.3)※
・進学率が高いのは、甲信越、北海道、九州沖縄

都道府県別進学率(現役・2018年)
・大学進学率1位は東京、短期大学進学率1位は長野、専門学校進学率1位は新潟

大学・短期大学・専門学校進学率（現役・過年度含 比較・ 2009～2018年）
・現役と過年度含の進学率の差は、大学は3.6ポイント(過年度含が高い)
　短期大学はほとんど差なし

注）※の( )内の数値は、2009年を100としたときの2018年の指数

▶地元残留率の推移　P16～P24

・大学入学者の地元残留率は、2010年43.4%→2019年44.4%(1.0ポイント上昇)
・短期大学入学者の地元残留率は、2010年66.6%→2019年69.9%(3.3ポイント上昇)
・大学入学者の地元残留率1位は愛知(70.7%)
　短期大学入学者の地元残留率1位は福岡(93.2%)

▶18歳人口減少率×地元残留率　P25・26

・大学入学者：都道府県別：2019→2031年
・短期大学入学者：都道府県別：2019→2031年

【本件に関するお問い合わせ先】
株式会社リクルートマーケティングパートナーズ　リクルート進学総研
http://souken.shingakunet.com/

分析・データついて

■分析・データについて

① 18歳人口概算は、文部科学省「学校基本調査」より、以下のとおり定義して算出した。
- 18歳人口＝3年前の中学校卒業者および中等教育学校前期課程修了者数
- 中学校卒業者数＝高校生＋フリーター＋就職者　すべて含む

② 表内の「年」に属する18歳とは、その年の3月に卒業を迎える高校3年生を指す。
③ 表内の「指数」とは、グラフ開始年の値を100とおいた際の値を示す。
④ 進学率とは、進学者数(大学・短大・専修学校専門課程(専門学校）)÷高等学校卒業者数(全日制・定時制＋中等教育学校後期課程)で算出した。
⑤ 残留率とは、自県内(地元）の大学・短期大学入学者数のうち自県内(地元）の高校出身の大学・短期大学入学者数の割合。（浪人含）
⑥ 図表で利用している百分率(%)は、小数点第2位を四捨五入しているため、四捨五入の結果、数値の和が100.0にならない場合がある。
⑦ 各分析の該当期間については、速報段階では数値が公表されないものもあるため、分析によっては期間(年）が一致しない場合がある。
⑧ エリア別分析における各エリアに含まれる都道府県については以下のとおり。

北海道　：北海道
東北　　：青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島
北関東　：茨城、栃木、群馬
南関東　：埼玉、千葉、東京、神奈川
甲信越　：新潟、山梨、長野
北陸　　：富山、石川、福井
東海　　：岐阜、静岡、愛知、三重
近畿　　：滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山
中国　　：鳥取、島根、岡山、広島、山口
四国　　：徳島、香川、愛媛、高知
九州沖縄：福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島、沖縄

【年早見表】

学校基本調査		18歳人口		3年前の中学・中等教育卒業者
		図表（年）	人数	
確報	学校基本調査公表	2019	1,174,801	H28年(2016年)　の中学校卒業者+中等教育学校前期課程修了者
確報	進学総研集計（予測）	2020	1,167,348	H29年(2017年)　の中学校卒業者+中等教育学校前期課程修了者+義務教育学校卒業者数
確報	進学総研集計（予測）	2021	1,141,140	H30年(2018年)　の中学校卒業者+中等教育学校前期課程修了者+義務教育学校卒業者数
速報	進学総研集計（予測）	2022	1,121,276	（令和元年）2019年　の中学校3年生+中等教育学校前期課程修了者（全国計のみ）+義務教育学校卒業者数（全国計のみ）
速報	進学総研集計（予測）	2023	1,097,105	（令和元年）2019年　の中学校3年生+中等教育学校前期課程3年生＋義務教育学校9年生の生徒数
速報	進学総研集計（予測）	2024	1,061,961	（令和元年）2019年　の中学校2年生+中等教育学校前期課程2年生＋義務教育学校8年生の生徒数
速報	進学総研集計（予測）	2025	1,089,005	（令和元年）2019年　の中学校1年生+中等教育学校前期課程1年生＋義務教育学校7年生の生徒数
速報	進学総研集計（予測）	2026	1,093,565	（令和元年）2019年　の小学校6年生＋義務教育学校6年生の生徒数
速報	進学総研集計（予測）	2027	1,085,011	（令和元年）2019年　の小学校5年生＋義務教育学校5年生の生徒数
速報	進学総研集計（予測）	2028	1,068,978	（令和元年）2019年　の小学校4年生＋義務教育学校4年生の生徒数
速報	進学総研集計（予測）	2029	1,066,720	（令和元年）2019年　の小学校3年生＋義務教育学校3年生の生徒数
速報	進学総研集計（予測）	2030	1,048,177	（令和元年）2019年　の小学校2年生＋義務教育学校2年生の生徒数
速報	進学総研集計（予測）	2031	1,033,386	（令和元年）2019年　の小学校1年生＋義務教育学校1年生の生徒数

18歳人口予測（全体：全国：2019～2031年)

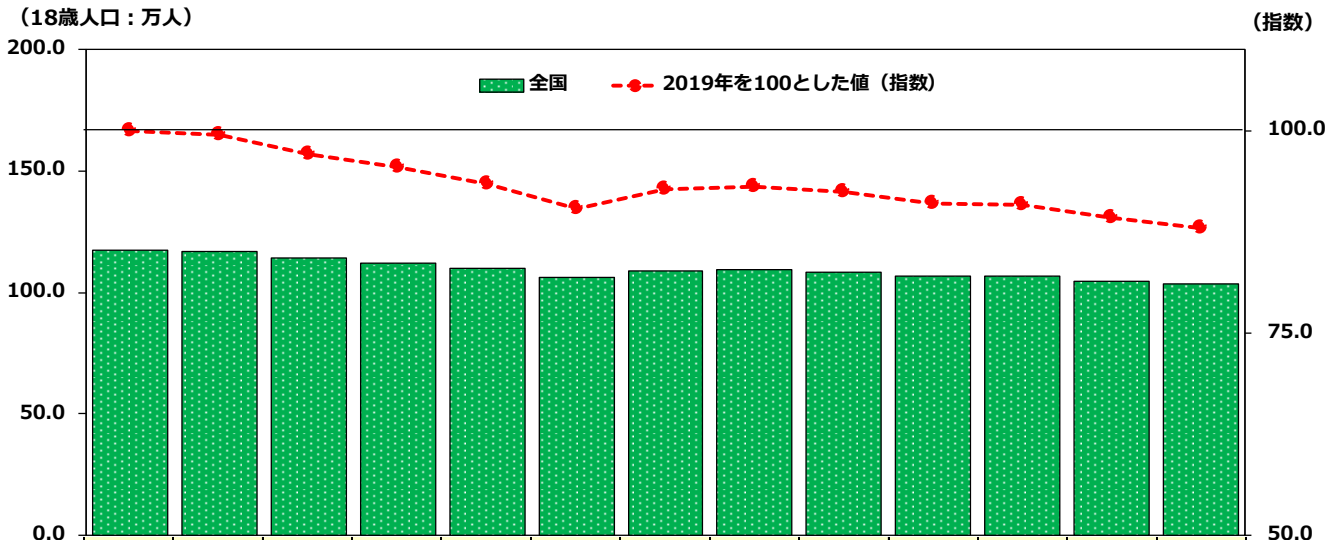
■2019年117.5万人→2031年103.3万人(14.2万人減少)

・全体の18歳人口は、以下の3段階を経て経年的に減少する。

① 2019～2024年：6年間かけて減少(117.5万人から106.2万人、11.3万人減少）。
特に2023～2024年の1年で3.5万人と大きく減少する。

② 2025～2027年：2025年に108.9万人（前年比2.7万人増）と増加に転じ、
2027年は108.5万人とほぼ変わらず。

③ 2028～2031年：2028年に106.9万人（前年比1.6万人減）と再び減少し、
2031年には103.3万人となる。



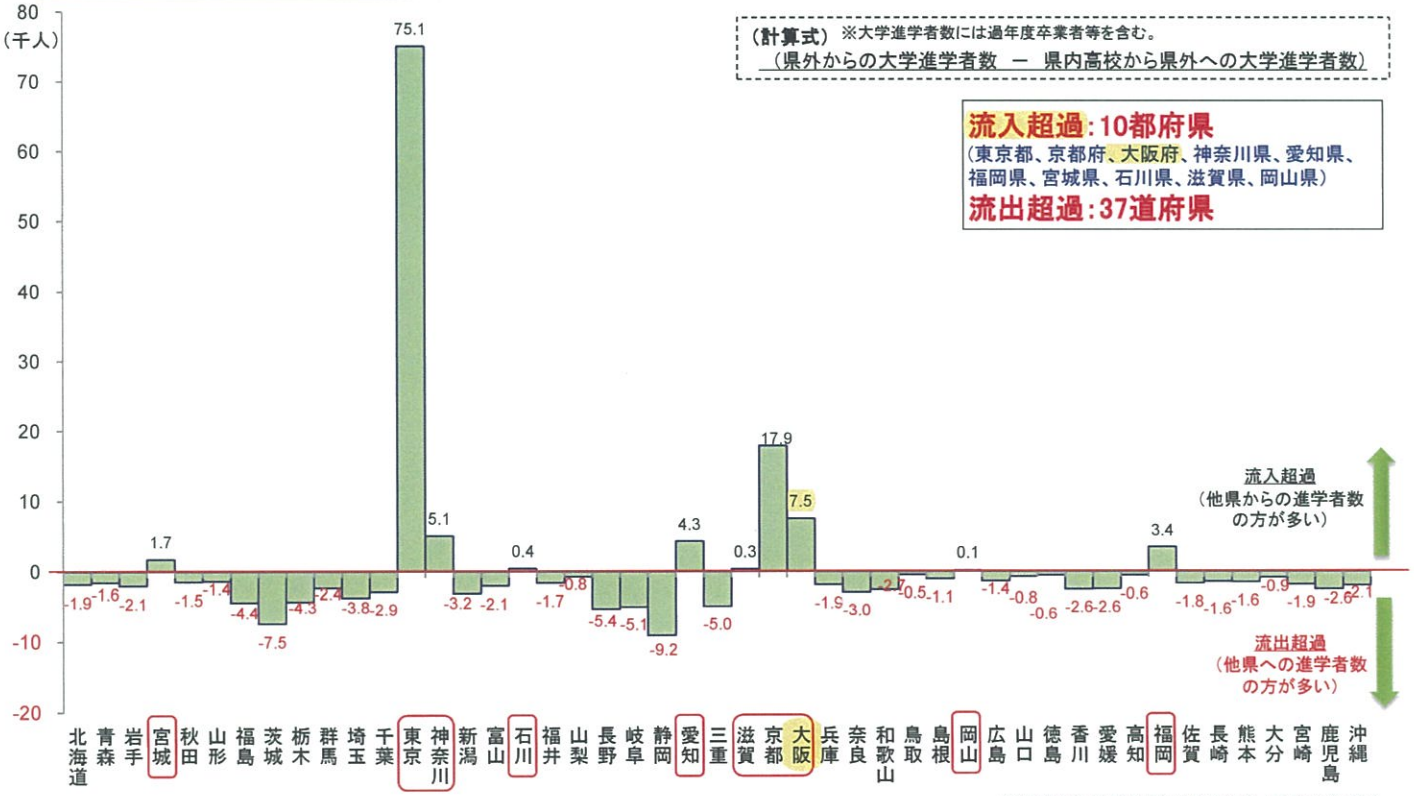
		2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年	2026年	2027年	2028年	2029年	2030年	2031年
全体	人数 （万人）	117.5	116.7	114.1	112.1	109.7	106.2	108.9	109.4	108.5	106.9	106.7	104.8	103.3
	指数	100.0	99.4	97.1	95.4	93.4	90.4	92.7	93.1	92.4	91.0	90.8	89.2	88.0

① ② ③

※データ元：「令和元年（2019年度）学校基本調査　速報値」より

大学進学時の都道府県別流入・流出者数

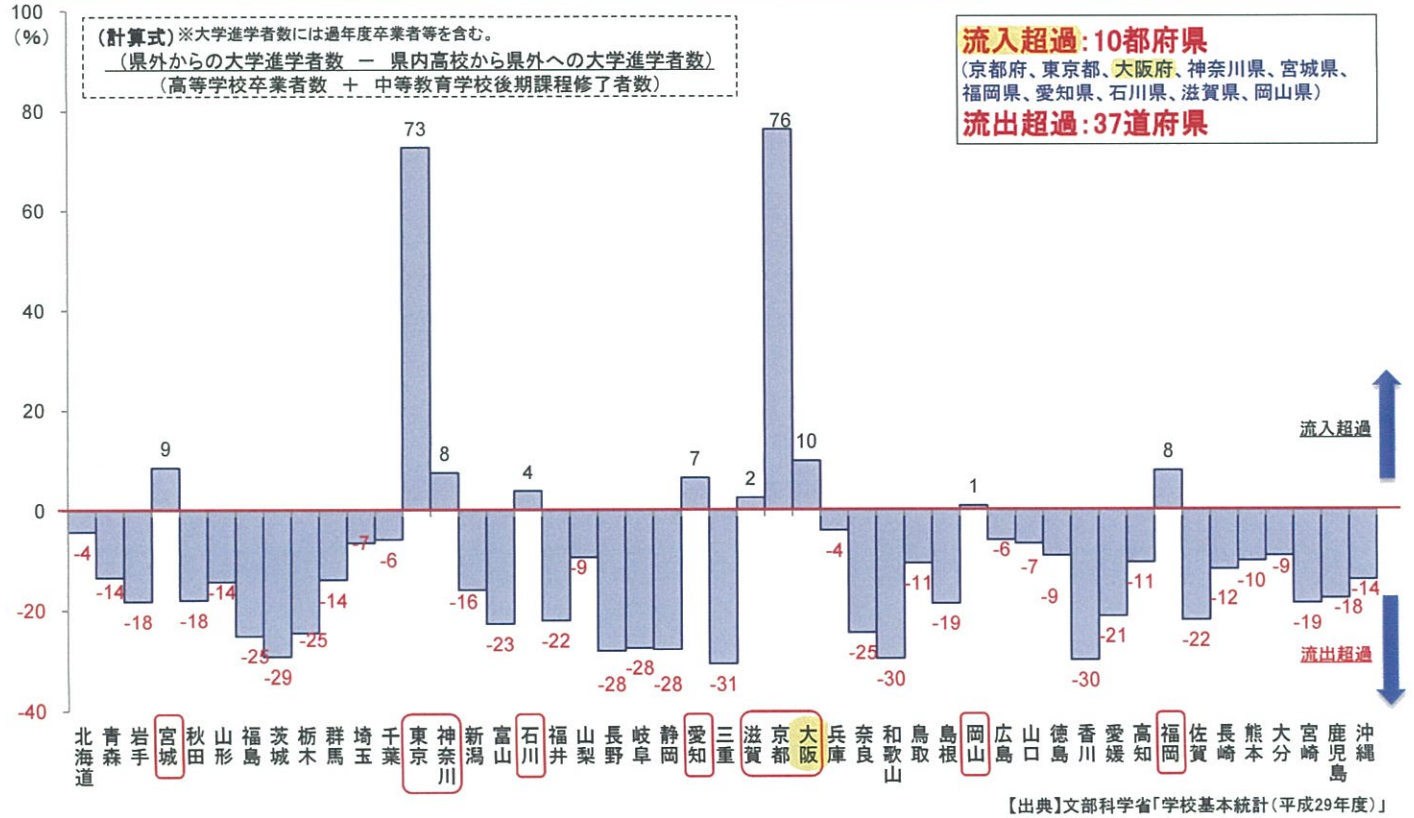
○ 大学進学時の各都道府県における流入者・流出者数をみると、流入超過が10都府県、流出超過が37道府県となっている。
○ 東京都には75,088人、京都府には17,899人、大阪府には7,544人が流入している一方、静岡県からは9,166人、茨城県からは7,508人、長野県からは5,359人が流出している。



【出典】文部科学省「学校基本統計(平成29年度)」

大学進学時の都道府県別流入・流出率

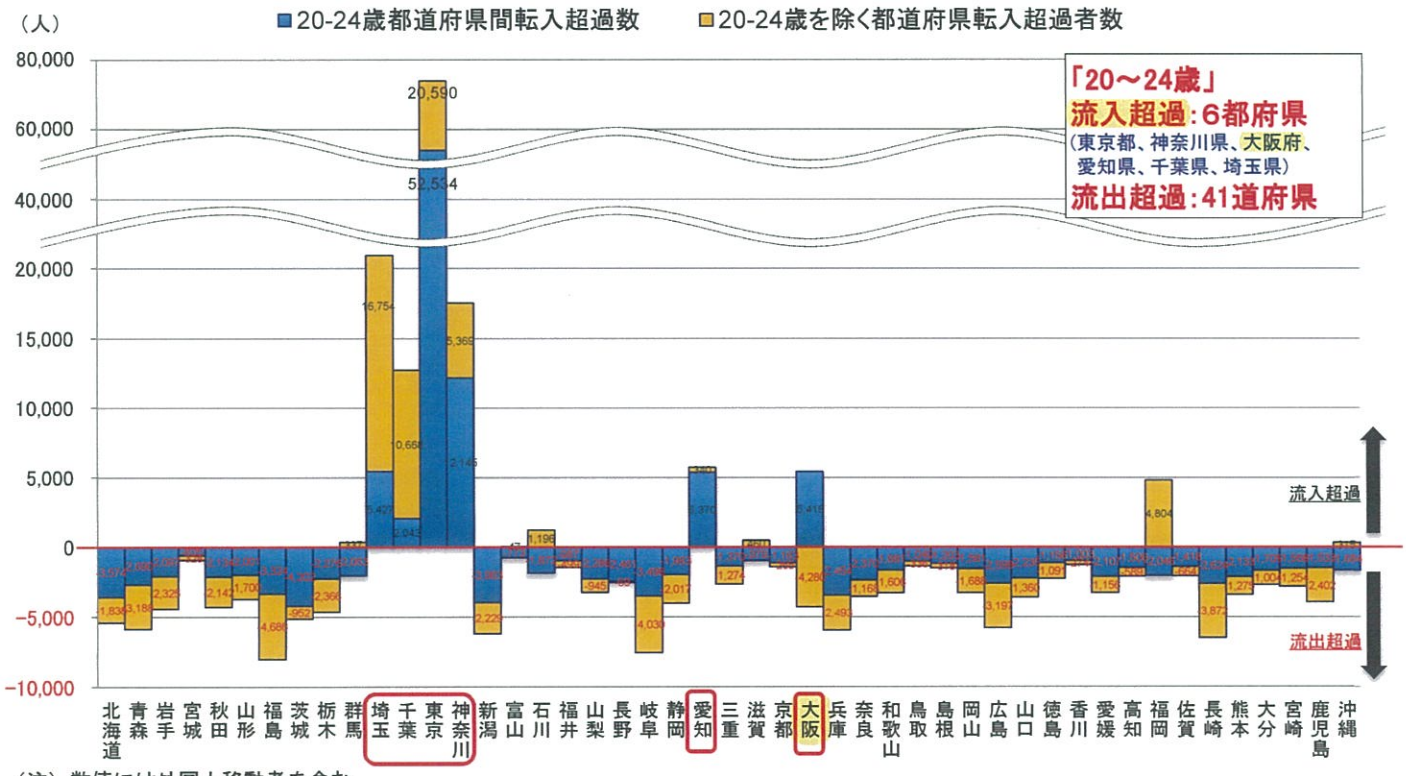
○ 大学進学時の各都道府県における流入者・流出者の割合をみると、流入超過が10都府県、流出超過が37道府県となっている。
○ 流入率が最も高い京都府では、京都府の高校等卒業者の76.2%に相当する人数が他県から京都府内の大学に入学し、流出率が最も高い三重県では、三重県の高校等卒業者の30.8%に相当する人数が三重県から他県の大学に進学している。



【出典】文部科学省「学校基本統計(平成29年度)」

「20～24歳」における都道府県間人口移動（※外国人移動者を含む）

○ 就職や進学等を機に41道府県の若者が県外に流出（平成29年）

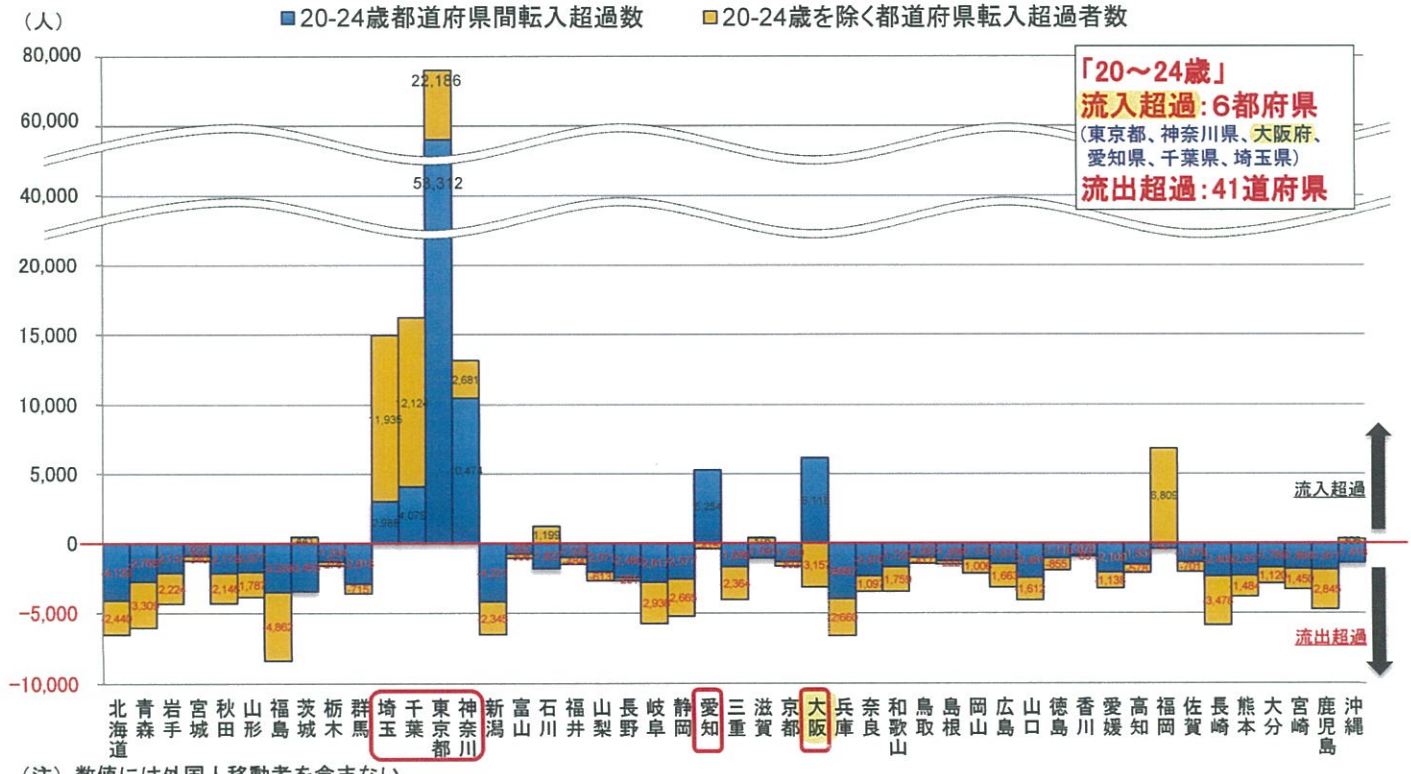


（注）数値には外国人移動者を含む。

総務省統計局「住民基本台帳人口移動報告」（2017年）より作成

「20～24歳」における都道府県間人口移動（※外国人移動者を含まない）

○ 就職や進学等を機に41道府県の若者が県外に流出（平成29年）



（注）数値には外国人移動者を含まない。

総務省統計局「住民基本台帳人口移動報告」（2017年）より作成

2019年（平成31年・令和元年）度の入学試験・６年制学科生の修学状況

国立大学

	大学名	2019年度入学定員			2019年度合格者数等				2019年度倍率・充足率		6年制学科の修学状況																		2018年度卒業者入学年度別分布（6年制）					国家試験合格状況 2019年国家試験（第104回）※4			
											2013年度入学生									2014年度入学生					2015年度入学生												
		入学定員		6年制・4年制一括募集の場合の4年制学科の入学定員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	実質競争倍率（受験者数／合格者数）	入学定員充足率（入学者数／入学定員）	2013年度入学時	2017年度5年次※3	5年次進級率	実習修了者	実習修了率	卒業者数	卒業率	国家試験合格者数	合格率	2014年度入学時	2018年度5年次※3	5年次進級率	実習修了者	実習修了率	2015年度入学時	2019年度5年次※3	5年次進級率	2013年度	2012年度	2011年度	その他	計	出願者	受験者	合格者	合格率
1	北海道大学 ※1	—	80	50（一括）	252	112	27	25	－	－	—	27	—	27	—	27	—	26	—	—	28	—	28	—	—	30	—	27	0	0	0	27	27	27	26	96.3%
2	東北大学	—	80	60（一括）	270	226	87	87	2.6	108.8%	—	19	—	19	—	19	—	18	—	—	21	—	21	—	—	19	—	19	0	0	0	19	19	19	18	94.7%
3	千葉大学	—	90	30（一括）	595	481	106	90	4.5	100.0%	—	40	—	40	—	40	—	37	—	—	40	—	40	—	—	40	—	40	0	0	0	40	40	40	37	92.5%
4	東京大学 ※2（理科Ⅱ類）	—	532	72（一括）	2,098	1,864	558	550	3.3	103.4%	—	8	—	7	—	6	—	6	—	—	8	—	8	—	—	8	—	7	0	0	0	7	7	7	7	100.0%
5	富山大学	6年制	55		469	353	62	59	5.7	107.3%	59	49	83.1%	49	83.1%	49	83.1%	44	74.6%	60	52	86.7%	51	85.0%	56	47	83.9%	50	5	0	0	55	55	54	47	87.0%
		4年制	50		153	130	62	55	2.1	110.0%																											
6	金沢大学	—	75	40（一括）	196	179	81	73	2.2	97.3%	—	35	—	35	—	35	—	34	—	—	35	—	35	—	—	36	—	35	1	0	0	36	36	36	35	97.2%
7	京都大学	—	80	65（一括）	196	189	87	86	2.2	107.5%	31	31	100.0%	27	87.1%	26	83.9%	26	83.9%	31	30	96.8%	30	96.8%	30	29	96.7%	26	1	0	1	28	28	28	28	100.0%
8	大阪大学	6年制	80		285	242	85	85	2.8	106.3%	25	24	96.0%	24	96.0%	24	96.0%	22	88.0%	29	27	93.1%	27	93.1%	27	23	85.2%	25	1	0	1	27	26	26	23	88.5%
9	岡山大学	6年制	40		219	167	44	41	3.8	102.5%	40	39	97.5%	38	95.0%	38	95.0%	35	87.5%	40	35	87.5%	35	87.5%	42	41	97.6%	38	3	1	1	43	43	43	39	90.7%
		4年制	40		95	57	46	40	1.2	100.0%																											
10	広島大学	6年制	38		207	186	41	41	4.5	107.9%	38	38	100.0%	36	94.7%	34	89.5%	32	84.2%	39	37	94.9%	32	82.1%	39	37	94.9%	34	2	1	0	37	36	36	33	91.7%
		4年制	22		49	45	25	24	1.8	109.1%																											
11	徳島大学	6年制	40		233	203	47	44	4.3	110.0%	—	40	—	40	—	40	—	39	—	—	42	—	42	—	—	42	—	40	0	0	0	40	40	40	39	97.5%
		4年制	40		253	153	72	45	2.1	112.5%																											
12	九州大学	6年制	30		112	84	31	30	2.7	100.0%	30	28	93.3%	28	93.3%	28	93.3%	28	93.3%	30	26	86.7%	26	86.7%	30	28	93.3%	28	2	0	1	31	32	32	32	100.0%
		4年制	49		132	96	55	52	1.7	106.1%																											
13	長崎大学	6年制	40		282	139	43	40	3.2	100.0%	41	40	97.6%	38	92.7%	38	92.7%	38	92.7%	42	41	97.6%	38	90.5%	40	39	97.5%	38	2	2	2	44	40	40	40	100.0%
		4年制	40		181	116	65	42	1.8	105.0%																											
14	熊本大学	6年制	55		330	320	61	60	5.2	109.1%	57	49	86.0%	48	84.2%	45	78.9%	41	71.9%	58	55	94.8%	54	93.1%	57	52	91.2%	45	5	0	0	50	52	49	45	91.8%
		4年制	35		130	120	41	38	2.9	108.6%																											

公立大学

	大学名	2019年度入学定員			2019年度合格者数等				2019年度倍率・充足率		6年制学科の修学状況																		2018年度卒業者入学年度別分布（6年制）					国家試験合格状況 2019年国家試験（第104回）※4			
											2013年度入学生									2014年度入学生					2015年度入学生												
		入学定員		6年制・4年制一括募集の場合の4年制学科の入学定員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	実質競争倍率（受験者数／合格者数）	入学定員充足率（入学者数／入学定員）	2013年度入学時	2017年度5年次※3	5年次進級率	実習修了者	実習修了率	卒業者数	卒業率	国家試験合格者数	合格率	2014年度入学時	2018年度5年次※3	5年次進級率	実習修了者	実習修了率	2015年度入学時	2019年度5年次※3	5年次進級率	2013年度	2012年度	2011年度	その他	計	出願者	受験者	合格者	合格率
15	岐阜薬科大学	6年制	120		1,152	771	199	132	3.9	110.0%	85	64	75.3%	64	75.3%	63	74.1%	61	71.8%	79	62	78.5%	62	78.5%	81	63	77.8%	63	5	2	0	70	70	70	66	94.3%
16	静岡県立大学	6年制	80		791	568	115	85	4.9	106.3%	—	80	—	80	—	80	—	79	—	—	81	—	81	—	—	80	—	80	0	0	0	80	80	80	79	98.8%
		4年制	40		319	234	70	44	3.3	110.0%																											
17	名古屋市立大学	6年制	60		801	551	109	66	5.1	110.0%	86	80	93.0%	76	88.4%	73	84.9%	70	81.4%	67	59	88.1%	55	82.1%	69	62	89.9%	73	7	0	0	80	80	80	74	92.5%
		4年制	40		414	294	72	47	4.1	117.5%																											
18	山口東京理科大学	6年制	120		1,103	764	240	145	3.2	120.8%	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

※1 平成23年度から北海道大学は総合入試を導入しており、平成30年度合格者数等欄は学部別入試分（6年制・4年制一括で募集数24人）に対するものであるほか、倍率・充足率は算出しない。

※2 東京大学の入学定員欄には理科Ⅱ類の募集数を記載している。薬学部の入学定員は80。

※3 5年次進級率の算出に当たっては、留年・休学者と編入学者を除いている。

※4 2019年国家試験（第104回）の出願者・受験者・合格者は新卒者のみの数値であり、合格率は受験者に対する率である。

私立大学

	大学名	2019年度入学定員			2019年度合格者数等				2019年度倍率・充足率		6年制学科の修学状況																		2018年度卒業者入学年度別分布（6年制）					国家試験合格状況 2019年国家試験（第104回）※4			
											2013年度入学生									2014年度入学生					2015年度入学生												
		入学定員		6年制・4年制一括募集の場合の4年制学科の入学定員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	実質競争倍率（受験者数／合格者数）	入学定員充足率（入学者数／入学定員）	2013年度入学時	2017年度5年次※3	5年次進級率	実習修了者	実習修了率	卒業者数	卒業率	国家試験合格者数	合格率	2014年度入学時	2018年度5年次※3	5年次進級率	実習修了者	実習修了率	2015年度入学時	2019年度5年次※3	5年次進級率	2013年度	2012年度	2011年度	その他	計	出願者	受験者	合格者	合格率
19	北海道医療大学	6年制	160		727	703	427	165	1.6	103.1%	186	134	72.0%	134	72.0%	120	64.5%	111	59.7%	176	112	63.6%	112	63.6%	175	110	62.9%	123	31	7	8	169	162	138	125	90.6%
20	北海道科学大学	6年制	180		995	957	620	189	1.5	105.0%	229	168	73.4%	143	62.4%	148	64.6%	124	54.1%	232	170	73.3%	169	72.8%	226	172	76.1%	148	4	5	1	158	183	158	129	81.6%
21	青森大学	6年制	70		114	99	82	54	1.2	77.1%	56	31	55.4%	30	53.6%	26	46.4%	20	35.7%	59	17	28.8%	17	28.8%	60	27	45.0%	34	7	1	3	45	34	34	25	73.5%
22	岩手医科大学	6年制	120		183	178	140	48	1.3	40.0%	187	105	56.1%	104	55.6%	78	41.7%	62	33.2%	190	124	65.3%	124	65.3%	159	91	57.2%	78	21	10	7	116	144	83	65	78.3%
23	東北医科薬科大学	6年制	300		1,009	908	559	305	1.6	101.7%	326	229	70.2%	228	69.9%	219	67.2%	206	63.2%	318	238	74.8%	238	74.8%	313	233	74.4%	219	42	14	6	281	293	266	242	91.0%
		4年制	40		74	70	48	15	1.5	37.5%																											
24	医療創生大学	6年制	90		397	387	368	57	1.1	63.3%	59	26	44.1%	26	44.1%	20	33.9%	20	33.9%	83	30	36.1%	30	36.1%	96	31	32.3%	22	7	4	0	33	40	33	29	87.9%
25	奥羽大学	6年制	140		241	235	161	101	1.5	72.1%	125	84	67.2%	84	67.2%	61	48.8%	31	24.8%	118	79	66.9%	79	66.9%	86	68	79.1%	62	3	0	0	65	100	64	32	50.0%
26	国際医療福祉大学	6年制	180		990	967	449	186	2.2	103.3%	197	148	75.1%	148	75.1%	139	70.6%	137	69.5%	197	135	68.5%	135	68.5%	197	130	66.0%	139	27	16	6	188	150	150	146	97.3%
27	高崎健康福祉大学	6年制	90		431	417	194	95	2.1	105.6%	98	74	75.5%	74	75.5%	65	66.3%	59	60.2%	100	81	81.0%	81	81.0%	98	74	75.5%	65	12	6	2	85	79	68	60	88.2%
28	城西大学	6年制	250		1,317	1,200	721	227	1.7	90.8%	374	209	55.9%	207	55.3%	196	52.4%	135	36.1%	327	169	51.7%	168	51.4%	290	162	55.9%	196	40	11	8	255	256	224	144	64.3%
		4年制	150		533	499	340	125	1.5	83.3%																											
29	日本薬科大学	6年制	260		1,313	1,237	729	250	1.7	96.2%	330	155	47.0%	155	47.0%	115	34.8%	101	30.6%	283	151	53.4%	151	53.4%	279	155	55.6%	115	35	5	11	166	135	118	103	87.3%
		4年制	90		322	303	154	103	2.0	114.4%																											
30	城西国際大学	6年制	130		419	390	309	101	1.3	77.7%	167	55	32.9%	55	32.9%	52	31.1%	43	25.7%	167	74	44.3%	74	44.3%	166	101	60.8%	52	6	2	3	63	70	59	47	79.7%
31	千葉科学大学	6年制	120		289	269	263	61	1.0	50.8%	120	78	65.0%	76	63.3%	61	50.8%	47	39.2%	142	84	59.2%	75	52.8%	179	70	39.1%	62	9	8	4	83	73	68	49	72.1%
32	帝京平成大学	6年制	240		2,386	2,196	549	210	4.0	87.5%	253	199	78.7%	199	78.7%	160	63.2%	123	48.6%	242	195	80.6%	195	80.6%	248	194	78.2%	160	68	10	3	241	167	167	125	74.9%
33	東京理科大学	6年制	100		2,155	1,991	552	82	3.6	82.0%	94	88	93.6%	88	93.6%	85	90.4%	80	85.1%	109	94	86.2%	94	86.2%	102	95	93.1%	88	5	0	2	95	92	92	87	94.6%
		4年制	100		1,278	1,198	498	95	2.4	95.0%																											
34	東邦大学	6年制	220		1,900	1,814	566	239	3.2	108.6%	235	196	83.4%	195	83.0%	186	79.1%	177	75.3%	258	207	80.2%	205	79.5%	238	203	85.3%	186	31	11	1	229	215	204	193	94.6%
35	日本大学	6年制	244		1,873	1,692	594	259	2.8	106.1%	272	212	77.9%	210	77.2%	186	68.4%	160	58.8%	251	220	87.6%	219	87.3%	261	223	85.4%	186	45	12	5	248	201	201	169	84.1%
36	北里大学	6年制	260		2,176	2,107	542	273	3.9	105.0%	259	237	91.5%	236	91.1%	235	90.7%	213	82.2%	260	240	92.3%	240	92.3%	265	240	90.6%	236	7	1	0	244	246	243	219	90.1%
		4年制	35		356	353	144	35	2.5	100.0%																											
37	慶應義塾大学	6年制	150		1,653	1,479	351	151	4.2	100.7%	161	139	86.3%	139	86.3%	136	84.5%	129	80.1%	160	142	88.8%	142	88.8%	150	137	91.3%	142	9	2	1	154	157	154	144	93.5%
		4年制	60		630	589	231	61	2.5	101.7%																											
38	昭和大学	6年制	200		1,754	1,693	433	200	3.9	100.0%	232	209	90.1%	207	89.2%	187	80.6%	159	68.5%	188	162	86.2%	162	86.2%	198	163	82.3%	187	19	3	2	211	220	195	164	84.1%
39	昭和薬科大学	6年制	240		2,541	2,222	785	248	2.8	103.3%	245	170	69.4%	169	69.0%	164	66.9%	145	59.2%	245	174	71.0%	168	68.6%	255	210	82.4%	164	33	15	1	213	208	201	169	84.1%
40	東京薬科大学	6年制	420		2,821	2,597	815	414	3.2	98.6%	517	433	83.8%	433	83.8%	409	79.1%	362	70.0%	401	329	82.0%	328	81.8%	457	362	79.2%	409	49	17	11	486	509	463	400	86.4%
41	星薬科大学	6年制	260		3,382	3,240	744	301	4.4	115.8%	261	245	93.9%	244	93.5%	233	89.3%	222	85.1%	278	258	92.8%	258	92.8%	286	268	93.7%	233	14	11	1	259	258	242	231	95.5%
		4年制	20		346	338	125	21	2.7	105.0%																											
42	武蔵野大学	6年制	160		3,550	3,323	379	140	8.8	87.5%	157	130	82.8%	130	82.8%	120	76.4%	104	66.2%	157	126	80.3%	125	79.6%	145	117	80.7%	120	27	6	0	153	146	132	113	85.6%
43	明治薬科大学	6年制	300		3,208	2,833	620	308	4.6	102.7%	333	288	86.5%	288	86.5%	269	80.8%	250	75.1%	325	278	85.5%	277	85.2%	326	289	88.7%	275	28	4	1	308	320	291	269	92.4%
		4年制	60		662	599	251	66	2.4	110.0%																											
44	帝京大学	6年制	320		3,326	2,981	611	364	4.9	113.8%	327	230	70.3%	230	70.3%	216	66.1%	198	60.6%	324	248	76.5%	248	76.5%	324	232	71.6%	216	25	5	4	250	259	250	226	90.4%
45	横浜薬科大学	6年制	340		2,929	2,782	797	366	3.5	107.6%	383	182	47.5%	181	47.3%	159	41.5%	121	31.6%	391	234	59.8%	233	59.6%	371	245	66.0%	160	70	29	36	295	246	245	154	62.9%
		4年制	30		261	241	116	32	2.1	106.7%																											
46	新潟薬科大学	6年制	180		360	346	310	131	1.1	72.8%	208	147	70.7%	146	70.2%	137	65.9%	102	49.0%	178	127	71.3%	127	71.3%	184	123	66.8%	138	22	6	3	169	167	148	108	73.0%
47	北陸大学	6年制	200		532	516	471	127	1.1	63.5%	290	116	40.0%	116	40.0%	115	39.7%	101	34.8%	249	123	49.4%	123	49.4%	151	81	53.6%	115	17	1	6	139	140	139	106	76.3%
48	愛知学院大学	6年制	145		1,243	1,120	539	144	2.1	99.3%	154	103	66.9%	103	66.9%	87	56.5%	84	54.5%	157	105	66.9%	105	66.9%	147	95	64.6%	88	21	10	10	129	120	102	96	94.1%
49	金城学院大学	6年制	150		904	876	489	150	1.8	100.0%	196	176	89.8%	176	89.8%	167	85.2%	135	68.9%	162	142	87.7%	142	87.7%	162	136	84.0%	168	25	9	2	204	175	169	136	80.5%
50	名城大学	6年制	265		2,240	2,057	986	258	2.1	97.4%	296	195	65.9%	195	65.9%	193	65.2%	189	63.9%	278	197	70.9%	197	70.9%	285	206	72.3%	193	42	9	5	249	223	223	218	97.8%
51	鈴鹿医療科学大学	6年制	100		454	451	387	106	1.2	106.0%	112	75	67.0%	72	64.3%	54	48.2%	51	45.5%	124	87	70.2%	87	70.2%	112	88	78.6%	54	10	3	1	68	90	57	53	93.0%
52	京都薬科大学	6年制	360		2,491	2,427	987	365	2.5	101.4%	366	295	80.6%	294	80.3%	288	78.7%	279	76.2%	377	302	80.1%	302	80.1%	371	293	79.0%	288	43	12	9	352	372	352	332	94.3%
53	同志社女子大学	6年制	120		1,035	1,023	309	123	3.3	102.5%	154	124	80.5%	121	78.6%	118	76.6%	97	63.0%	139	120	86.3%	119	85.6%	116	105	90.5%	118	12	1	0	131	137	130	104	80.0%
54	立命館大学	6年制	100		1,372	1,292	441	84	2.9	84.0%	108	93	86.1%	93	86.1%	92	85.2%	86	79.6%	99	79	79.8%	79	79.8%	103	73	70.9%	92	8	1	4	105	106	101	92	91.1%
		4年制	60		536	489	221	61	2.2	101.7%																											
55	大阪大谷大学	6年制	140		474	431	323	134	1.3	95.7%	148	91	61.5%	91	61.5%	79	53.4%	54	36.5%	143	110	76.9%	110	76.9%	152	111	73.0%	79	31	11	5	126	123	94	60	63.8%
56	大阪薬科大学	6年制	294		2,279	2,087	856	311	2.4	105.8%	ー	273	－	273	－	266	－	229	ー	ー	255	－	254	－	ー	239	－	266	37	15	7	325	342	324	266	82.1%
57	近畿大学	6年制	150		4,584	4,208	633	153	6.6	102.0%	176	136	77.3%	135	76.7%	129	73.3%	121	68.8%	156	132	84.6%	132	84.6%	160	134	83.8%	131	16	7	3	157	161	142	132	93.0%
		4年制	40		994	924	225	38	4.1	95.0%																											
58	摂南大学	6年制	220		4,818	4,395	1,486	219	3.0	99.5%	248	166	66.9%	164	66.1%	160	64.5%	143	57.7%	227	164	72.2%	164	72.2%	218	170	78.0%	161	26	9	7	203	223	203	169	83.3%
59	神戸学院大学	6年制	250		2,786	2,612	1,135	256	2.3	102.4%	282	191	67.7%	189	67.0%	183	64.9%	159	56.4%	263	179	68.1%	179	68.1%	252	179	71.0%	183	33	18	9	243	246	229	190	83.0%
60	神戸薬科大学	6年制	270		2,696	2,448	784	287	3.1	106.3%	289	214	74.0%	214	74.0%	208	72.0%	198	68.5%	298	248	83.2%	248	83.2%	276	219	79.3%	208	39	13	6	266	260	246	230	93.5%

	大学名	6年制			2019年度合格者数等				2019年度倍率・充足率		6年制学科の修学状況																			2018年度卒業者入学年度別分布（6年制）					国家試験合格状況			
		入学定員		6年制・4年制一括募集の場合の4年制学科の入学定員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	実質競争倍率（受験者数／合格者数）	入学定員充足率（入学者数／入学定員）	2013年度入学生									2014年度入学生					2015年度入学生									2019年国家試験（第104回）※4			
											2013年度入学時	2017年度5年次※3	5年次進級率	実習修了者	実習修了率	卒業者数	卒業率	国家試験合格者数	合格率	2014年度入学時	2018年度5年次※3	5年次進級率	実習修了者	実習修了率	2015年度入学時	2019年度5年次※3	5年次進級率	2013年度	2012年度	2011年度	その他	計	出願者	受験者	合格者	合格率
61	兵庫医療大学	6年制	150		715	673	487	152	1.4	101.3%	171	103	60.2%	103	60.2%	96	56.1%	76	44.4%	159	123	77.4%	122	76.7%	153	118	77.1%	96	22	9	4	131	138	131	84	64.1%
62	姫路獨協大学	6年制	100		156	122	114	30	1.1	30.0%	80	38	47.5%	38	47.5%	29	36.3%	23	28.8%	129	59	45.7%	59	45.7%	101	54	53.5%	32	10	2	2	46	51	38	30	78.9%
63	武庫川女子大学	6年制	210		1,766	1,495	668	196	2.2	93.3%	232	181	78.0%	181	78.0%	159	68.5%	130	56.0%	219	169	77.2%	169	77.2%	206	158	76.7%	159	48	12	9	228	219	176	141	80.1%
		4年制	40		194	151	105	34	1.4	85.0%																												
64	就実大学	6年制	120		394	386	324	94	1.2	78.3%	135	98	72.6%	98	72.6%	82	60.7%	69	51.1%	139	98	70.5%	97	69.8%	111	83	74.8%	86	17	6	5	114	110	90	75	83.3%
65	広島国際大学	6年制	120		374	360	269	72	1.3	60.0%	163	120	73.6%	119	73.0%	104	63.8%	79	48.5%	138	98	71.0%	95	68.8%	88	67	76.1%	104	17	12	9	142	136	111	83	74.8%
66	福山大学	6年制	150		369	361	232	108	1.6	72.0%	164	131	79.9%	129	78.7%	122	74.4%	95	57.9%	161	131	81.4%	130	80.7%	154	133	86.4%	124	11	3	0	138	139	127	99	78.0%
67	安田女子大学	6年制	120		505	492	338	84	1.5	70.0%	103	86	83.5%	86	83.5%	84	81.6%	63	61.2%	113	99	87.6%	96	85.0%	96	85	88.5%	85	4	0	1	90	91	89	66	74.2%
68	徳島文理大学	6年制	180		252	245	205	72	1.2	40.0%	142	110	77.5%	109	76.8%	102	71.8%	84	59.2%	172	136	79.1%	134	77.9%	130	96	73.8%	111	3	1	1	116	189	162	133	82.1%
69	徳島文理大学（香川薬学部）	6年制	90		146	141	131	40	1.1	44.4%	76	46	60.5%	46	60.5%	40	52.6%	35	46.1%	101	56	55.4%	56	55.4%	76	42	55.3%	43	8	8	1	60				
70	松山大学	6年制	100		345	315	281	93	1.1	93.0%	127	88	69.3%	87	68.5%	74	58.3%	61	48.0%	126	92	73.0%	91	72.2%	103	74	71.8%	77	10	0	1	88	102	80	67	83.8%
71	第一薬科大学	6年制	173		455	442	387	147	1.1	85.0%	204	136	66.7%	123	60.3%	78	38.2%	58	28.4%	202	155	76.7%	131	64.9%	164	84	51.2%	78	21	12	10	121	166	85	63	74.1%
72	福岡大学	6年制	230		2,936	2,812	680	231	4.1	100.4%	283	251	88.7%	251	88.7%	226	79.9%	206	72.8%	233	204	87.6%	201	86.3%	240	217	90.4%	226	29	8	1	264	271	235	214	91.1%
73	長崎国際大学	6年制	120		539	530	300	123	1.8	102.5%	139	92	66.2%	91	65.5%	83	59.7%	73	52.5%	133	83	62.4%	83	62.4%	131	101	77.1%	86	12	4	0	102	110	90	78	86.7%
74	崇城大学	6年制	120		1,637	1,593	577	132	2.8	110.0%	140	110	78.6%	110	78.6%	102	72.9%	98	70.0%	129	105	81.4%	105	81.4%	129	104	80.6%	103	9	2	1	115	138	115	109	94.8%
75	九州保健福祉大学	6年制	100		353	346	333	90	1.0	90.0%	139	80	57.6%	80	57.6%	64	46.0%	62	44.6%	121	70	57.9%	70	57.9%	177	96	54.2%	66	19	7	10	102	105	70	68	97.1%
		4年制	40		61	60	56	18	1.1	45.0%																												

※3 5年次進級率の算出に当たっては、留年・休学者と編入学者を除いている。

※4 2019年国家試験（第104回）の出願者・受験者・合格者は新卒者のみの数値であり、合格率は受験者に対する率である。

特集

進学ブランド力調査 2019

進学先を本格的に考え始める高校3年生の4月。高校生自身の様々な経験の中で醸成された大学イメージの総和は、彼らの進路選択にどのように影響しているのだろうか。そして各大学が発信しているメッセージは、狙い通りに伝わっているのか。独自の魅力として他大学との差別化につながっているのだろうか。2008年にスタートした弊社「進学ブランド力調査」は、今年で12回目を迎えた。高校生が抱く純粋な大学認知の状況について今年も紹介する。

第1章 全体報告

本調査は2020年3月卒業予定の高校3年生に対して、2019年4月5日～26日にかけて実施したものである。知名度ランキングとは、高校生が「知っている」と回答した大学を、志願度ランキングは「志願したい大学」を4校まで選択してもらい、ランキングにまとめたものだ。本誌では、関東・東海・関西の3エリアごとに全体（男女）、文系・理系（全体・男女）の詳細な結果を掲載している。

次に、3エリアごとの大学のイメージランキングを掲載している。イメージランキングとは、スペックで示しやすい機能的価値、情緒的な側面を示す感性的価値について、各大学のイメージを回答してもらい、上位15位をランキングにしたものだ。全体（男女）の回答結果を見て、各大学が伝えたいイメージが高校生に伝わっているか、ご確認いただきたい。

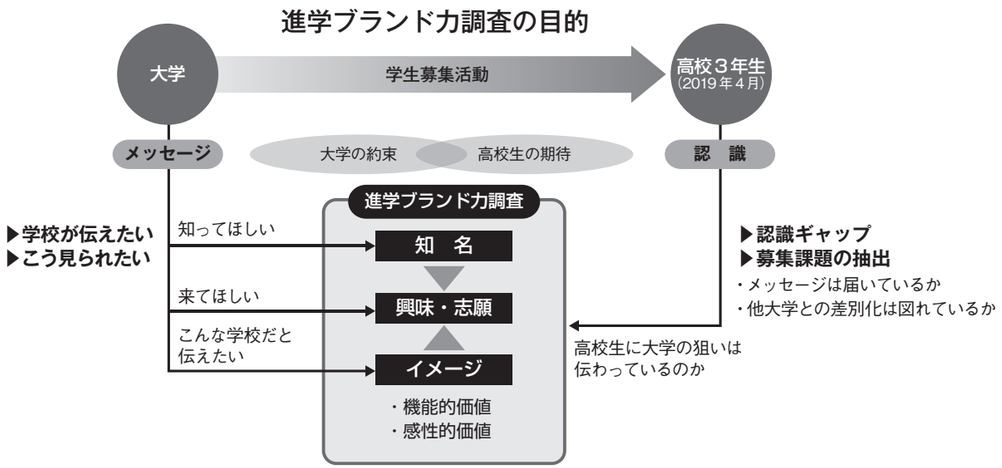
国公私立大学志望の状況

関東・関西は私立志向、東海は国公立志向が高いが私立志向がやや増加

大学の国公私立別の志望状況を過去10年分表したのが図表1である。3エリアごとの特徴を見ていこう。

まず関東は一貫して「私立志向・計」が過半数を占め、私立志向が顕著である。多少の数値変動はあるものの、国公立志向が私立志向を上回ることはない。関東にはもともと総合型私立大学が多く、高校生の進路選択の候補の層が厚い。卒業生も多いため、企業からの評価もあり、私大中心のブランドが形成されやすいエリアと言える。

東海は3エリア中最も国公立志向が高く、調査開始以来一貫して「国



「理学」「生物・農・獣医・林産・水産」「工学（機械）」「工学（電気・電子・情報）」「工学（建築・土木）」「看護・医療・保健・衛生」「薬学」

国公立の人気が高い理系であるが、3エリア共に、多様な大学が分野ごとに強さを発揮し1位を獲得した。医療系は、関東では北里大学が強く、東海・関西は名古屋大学・藤田医科大学と大阪薬科大学・森ノ宮医療大学がそれぞれ1位を分け合う結果となった。

● 理学

あらゆる科学の基盤分野と言われる理学だが、ランキングは難関校が上位を占める。関東1位は東京理科大学（14.6％）、2位明治大学（11.9％）。東海は1位の名古屋大学のスコアが高く（25.4％）、4人に1人は志望している状態。関西1位は大阪市立大学（16.4％）、2位は同率で大阪大学と関西大学（16.0％）となった。

● 生物・農・獣医・林産・水産

食糧自給問題や食の安全保証等、全人類的な課題解決に期待が集まる分野。関東は幅広い自然科学分野を網羅する東京農業大学が圧倒的1位を獲得（25.2％）。系統志望者の4人に1人が志望している状態だ。東海は農学部を持つ名城大学が1位（21.1％）、応用生物科学部を持つ岐阜大学が2位（14.3％）。関西は生命環境科学域を持つ大阪府立大学が1位（17.5％）、2位は農学部を持つ神戸大学（16.0％）となった。

● 工学（機械）

関東1位は幅広い理工学分野を擁する東京理科大学（13.3％）、2位芝浦工業大学（12.9％）、3位東京工業大学（11.7％）となった。東海は1位名古屋工業大学（23.9％）、2位名古屋大学（22.4％）、3位静岡大学（18.2％）と国立大学がトップスリー。関西は1位は同率で関西大学と神戸大学（18.1％）、3位は大阪大学（17.1％）となった。

● 工学（電気・電子・情報）

エネルギーや通信に関わり、近年エンジニア人材ニーズが高い分野である。概ね幅広く領域を網羅した工学部を持つ大学が並ぶ。関東1位は芝浦工業大学（14.8％）、2位は東京理科大学（14.0％）、3位に東京工業大学と早稲田大学が同率で並んだ（10.6％）。東海は工学（機械）に引き続き名古屋工業大学が1位（24.1％）、2位は名古屋大学（20.3％）、3位は名城大学（18.2％）。関西1位は大阪大学（19.3％）、2位神戸大学（17.2％）、3位は同率で関西大学と近畿大学が並んだ（15.1％）。

● 工学（建築・土木）

東日本震災復興需要や東京五輪開催等を背景に業界人気が高まっている系統。関東1位は2017年に建築学部を設置した芝浦工業大学（16.4％）、2位東京理科大学（12.0％）、3位明治大学（10.6％）となった。東海1位は名城大学（20.7％）、2位名古屋工業大学（18.9％）、3位名古屋大学（17.7％）と、理工系に強い大学が並ぶ。関西1位は建築学部を擁する近畿大学（19.0％）、2位は環境都市工学部に建築学科を持つ関西大学（18.2％）となった。

● 看護・医療・保健・衛生

医学部の有無に拘わらずコメディカルを標榜する大学が多くランクイン。3エリアとも、多様な大学に志望が分散している。関東1位は北里大学（11.7％）、2位は順天堂大学（8.0％）、3位は杏林大学（7.4％）と、いずれも附属病院と多くのコメディカル学科を持つ大学が並ぶ。東海は2018年秋に校名変更した藤田医科大学が2位以下に大差をつけて1位（15.3％）、2位は生命健康科学部を持つ中部大学（8.6％）。関西1位は「医療系総合大学」を標榜する森ノ宮医療大学（10.1％）、2位は健康科学部に医療技術系学科を擁する京都橘大学（8.0％）、3位は看護学部・リハビリテーション学部を持つ兵庫医療大学（6.6％）となった。

● 薬学

薬学部を持つ総合大学だけでなく、薬科大学も多くランクインしている。関東は1位北里大学（19.4％）、2位星薬科大学（14.9％）、3位明治薬科大学（11.6％）。いずれも6年制と4年制を併設する大学である。東海1位は薬学部は持たず大学院に創薬研究科を持つ名古屋大学（20.7％）、2位名城大学（18.1％）、3位名古屋市立大学（14.8％）。関西1位は大阪薬科大学（19.0％）、2位京都薬科大学（15.4％）、僅差で3位大阪大学（15.2％）となった。

理学

関東（N=579）				東海（N=163）				関西（N=265）			
順位	大学名	区分	(%)	順位	大学名	区分	(%)	順位	大学名	区分	(%)
1	東京理科大学	私	14.6	1	名古屋大学	国	25.4	1	大阪市立大学	公	16.4
2	明治大学	私	11.9	2	静岡大学	国	19.2	2	大阪大学	国	16.0
3	早稲田大学	私	10.0	3	名城大学	私	17.9	2	関西大学	私	16.0
4	青山学院大学	私	7.8	4	名古屋工業大学	国	17.3	4	近畿大学	私	14.9
5	東京工業大学	国	7.4	5	岐阜大学	国	13.0	5	神戸大学	国	14.2
6	筑波大学	国	6.8	6	三重大学	国	8.6	6	大阪府立大学	公	14.1
7	千葉大学	国	6.5	7	中部大学	私	6.2	7	京都大学	国	10.4
7	中央大学	私	6.5	8	大阪大学	国	5.6	8	大阪教育大学	国	6.3
7	横浜国立大学	国	6.5	9	名古屋市立大学	公	5.5	9	同志社大学	私	6.0
10	埼玉大学	国	6.1	10	愛知教育大学	国	4.9	9	立命館大学	私	6.0
10	東京大学	国	6.1								

生物・農・獣医・林産・水産

関東（N=431）				東海（N=147）				関西（N=249）			
順位	大学名	区分	(%)	順位	大学名	区分	(%)	順位	大学名	区分	(%)
1	東京農業大学	私	25.2	1	名城大学	私	21.1	1	大阪府立大学	公	17.5
2	明治大学	私	11.2	2	岐阜大学	国	14.3	2	神戸大学	国	16.0
3	北里大学	私	10.3	3	名古屋大学	国	13.6	3	近畿大学	私	13.2
4	東京農工大学	国	9.1	4	静岡大学	国	13.0	4	大阪市立大学	公	10.8
5	日本大学	私	8.2	5	三重大学	国	10.2	5	大阪大学	国	8.8
6	早稲田大学	私	6.5	6	中部大学	私	6.8	6	龍谷大学	私	8.4
7	千葉大学	国	6.3	6	名古屋工業大学	国	6.8	7	京都大学	国	7.2
8	東京海洋大学	国	6.1	6	名古屋市立大学	公	6.8	8	関西大学	私	6.8
9	玉川大学	私	4.9	9	静岡県立大学	公	4.7	9	摂南大学	私	6.0
9	筑波大学	国	4.9	9	東京農業大学	私	4.7	10	京都府立大学	公	5.6

工学（機械）

関東（N=504）				東海（N=216）				関西（N=299）			
順位	大学名	区分	(%)	順位	大学名	区分	(%)	順位	大学名	区分	(%)
1	東京理科大学	私	13.3	1	名古屋工業大学	国	23.9	1	関西大学	私	18.1
2	芝浦工業大学	私	12.9	2	名古屋大学	国	22.4	1	神戸大学	国	18.1
3	東京工業大学	国	11.7	3	静岡大学	国	18.2	3	大阪大学	国	17.1
4	早稲田大学	私	11.1	4	名城大学	私	17.3	4	近畿大学	私	16.5
5	明治大学	私	8.3	5	岐阜大学	国	12.6	5	大阪市立大学	公	15.1
6	青山学院大学	私	8.2	6	三重大学	国	11.7	6	大阪工業大学	私	13.1
7	東京電機大学	私	7.9	7	愛知工業大学	私	7.5	7	大阪府立大学	公	11.5
8	横浜国立大学	国	7.7	8	中部大学	私	6.1	8	京都大学	国	7.6
9	東京大学	国	6.7	9	南山大学	私	3.7	9	京都工芸繊維大学	国	6.9
10	筑波大学	国	6.5	10	中京大学	私	3.3	10	立命館大学	私	5.9
				10	豊橋技術科学大学	国	3.3				

工学（電気・電子・情報）

関東（N=659）				東海（N=288）				関西（N=378）			
順位	大学名	区分	(%)	順位	大学名	区分	(%)	順位	大学名	区分	(%)
1	芝浦工業大学	私	14.8	1	名古屋工業大学	国	24.1	1	大阪大学	国	19.3
2	東京理科大学	私	14.0	2	名古屋大学	国	20.3	2	神戸大学	国	17.2
3	東京工業大学	国	10.6	3	名城大学	私	18.2	3	関西大学	私	15.1
3	早稲田大学	私	10.6	4	静岡大学	国	16.1	3	近畿大学	私	15.1
5	明治大学	私	10.0	5	岐阜大学	国	10.5	5	大阪市立大学	公	14.8
6	東京電機大学	私	9.9	5	三重大学	国	10.5	6	大阪工業大学	私	11.7
7	青山学院大学	私	7.6	7	愛知工業大学	私	8.4	7	大阪府立大学	公	9.4
8	首都大学東京	公	7.1	8	中部大学	私	6.3	8	京都大学	国	8.6
9	慶應義塾大学	私	6.8	9	中京大学	私	4.2	9	京都工芸繊維大学	国	7.6
10	筑波大学	国	6.6	9	豊橋技術科学大学	国	4.2	10	同志社大学	私	6.8
				9	南山大学	私	4.2	10	立命館大学	私	6.8

工学（建築・土木）

関東（N=365）				東海（N=165）				関西（N=254）			
順位	大学名	区分	(%)	順位	大学名	区分	(%)	順位	大学名	区分	(%)
1	芝浦工業大学	私	16.4	1	名城大学	私	20.7	1	近畿大学	私	19.0
2	東京理科大学	私	12.0	2	名古屋工業大学	国	18.9	2	関西大学	私	18.2
3	明治大学	私	10.6	3	名古屋大学	国	17.7	3	大阪市立大学	公	17.9
4	日本大学	私	10.3	4	愛知工業大学	私	14.1	4	神戸大学	国	17.1
5	早稲田大学	私	10.0	5	三重大学	国	9.8	5	大阪大学	国	12.1
6	東京工業大学	国	8.3	6	岐阜大学	国	9.2	6	大阪工業大学	私	10.4
7	青山学院大学	私	7.2	7	中部大学	私	8.5	7	京都工芸繊維大学	国	9.8
7	首都大学東京	公	7.2	8	静岡大学	国	7.9	8	京都大学	国	8.2
9	東京電機大学	私	7.0	9	名古屋市立大学	公	5.5	9	大阪府立大学	公	6.6
10	法政大学	私	6.4	10	豊橋技術科学大学	国	4.3	10	立命館大学	私	6.2
10	横浜国立大学	国	6.4								

看護・医療・保健・衛生

関東（N=850）				東海（N=371）				関西（N=583）			
順位	大学名	区分	(%)	順位	大学名	区分	(%)	順位	大学名	区分	(%)
1	北里大学	私	11.7	1	藤田医科大学	私	15.3	1	森ノ宮医療大学	私	10.1
2	順天堂大学	私	8.0	2	中部大学	私	8.6	2	京都橘大学	私	8.0
3	杏林大学	私	7.4	3	名古屋市立大学	公	6.9	3	兵庫医療大学	私	6.6
4	帝京大学	私	7.0	4	名古屋学芸大学	私	5.9	4	大阪府立大学	公	6.2
4	帝京平成大学	私	7.0	5	名城大学	私	5.4	5	大和大学	私	5.4
6	埼玉県立大学	公	5.0	6	愛知県立大学	公	5.1	6	摂南大学	私	5.2
7	国際医療福祉大学	私	4.3	6	愛知淑徳大学	私	5.1	7	兵庫県立大学	公	4.4
8	首都大学東京	公	4.1	6	鈴鹿医療科学大学	私	5.1	8	近畿大学	私	4.3
9	千葉県立保健医療大学	公	3.7	9	岐阜県立看護大学	公	4.8	9	京都府立医科大学	公	4.0
10	千葉大学	国	3.4	9	名古屋大学	国	4.8	9	神戸大学	国	4.0
10	東京医療保健大学	私	3.4								

※医学・歯学を除くコメディカル領域

薬学

関東（N=335）				東海（N=121）				関西（N=190）			
順位	大学名	区分	(%)	順位	大学名	区分	(%)	順位	大学名	区分	(%)
1	北里大学	私	19.4	1	名古屋大学	国	20.7	1	大阪薬科大学	私	19.0
2	星薬科大学	私	14.9	2	名城大学	私	18.1	2	京都薬科大学	私	15.4
3	明治薬科大学	私	11.6	3	名古屋市立大学	公	14.8	3	大阪大学	国	15.2
4	千葉大学	国	10.2	4	静岡県立大学	公	9.9	4	神戸大学	国	11.5
5	東京薬科大学	私	9.3	5	千葉大学	国	8.3	5	近畿大学	私	11.0
6	慶應義塾大学	私	9.0	6	岐阜薬科大学	公	7.5	6	京都大学	国	10.5
7	東邦大学	私	6.8	7	藤田医科大学	私	6.6	7	大阪市立大学	公	8.9
8	日本大学	私	6.0	8	岐阜大学	国	5.8	7	大阪府立大学	公	8.9
9	昭和薬科大学	私	5.9	8	静岡大学	国	5.8	9	摂南大学	私	7.9
9	帝京大学	私	5.9	10	金城学院大学	私	5.7	10	神戸薬科大学	私	7.4

※割合（％）は、小数点第2位四捨五入
※区分の略称は以下の通り
国／国立　公／公立　私／私立

調 査 概 要

調査目的

2020年3月卒業予定の高校3年生の大学に対する志願度、知名度、イメージを把握し、関係各位の参考にする

調査対象

関東エリア、東海エリア、関西エリアの高校に通っている2020年3月卒業予定者（調査時高校3年生）計11万8128名

※2018年度学校基本調査の「全日制・本科2年生生徒数（県別）」、「中等教育学校・後期課程2年生」を基に、リクルートマーケティングパートナーズが保有するリスト(注)より調査対象とする数を抽出

（注）リクルートが発行する進学情報誌『スタディサプリ進路ブック』及び、配信する進学情報WEBサービス『スタディサプリ進路』（http://shingakunet.com）会員リスト

【エリア区分】

関東エリア（東京都、神奈川県、千葉県、埼玉県、茨城県、栃木県、群馬県の1都6県）

東海エリア（静岡県、愛知県、岐阜県、三重県の4県）

関西エリア（大阪府、京都府、奈良県、和歌山県、兵庫県、滋賀県の2府4県）

調査期間

2019年4月5日（金）～4月26日（金）

調査方法

対象者に調査票を郵送し、記入後郵送で回収

調査対象校

（各エリアとも下記に該当する大学を調査対象とした）

調査対象都府県にキャンパスが所在する全大学及びその他2エリアの国立大学全て、公立・私立大学の入学定員1000名以上の大学

調査エリア	調査対象校数	有効回答数（※ウェイトバック前）
関東エリア	大学　308校（自エリア 244校、他エリア　64校）	全体　6598件（男子3255件・女子3343件）
東海エリア	大学　214校（自エリア　82校、他エリア132校）	全体　2367件（男子1189件・女子1178件）
関西エリア	大学　259校（自エリア147校、他エリア112校）	全体　4151件（男子2117件・女子2034件）

＜集計対象の詳細一覧表＞

	【回収実数】全体（ウェイトバック前）	【回収実数】大学進学希望者数	ウェイト値	【補正後】全体		【補正後】大学進学希望者数
3エリア・計	13,116	11,544		13,146		11,572
関東・計	6,598	5,887		6,630		5,919
男子	3,255	3,035	1.02	3,320		3,096
女子	3,343	2,852	0.99	3,310		2,823
文系	3,388	3,044		3,399		3,056
理系	2,236	2,115		2,252		2,131
どちらでもない	457	265		458		266
東海・計	2,367	2,017		2,367		2,018
男子	1,189	1,076	1.01	1,201		1,087
女子	1,178	941	0.99	1,166		932
文系	1,223	1,068		1,221		1,066
理系	802	756		805		759
どちらでもない	227	107		227		107
関西・計	4,151	3,640		4,149		3,635
男子	2,117	1,940	0.98	2,075		1,901
女子	2,034	1,700	1.02	2,075		1,734
文系	2,205	1,960		2,211		1,963
理系	1,257	1,191		1,249		1,184
どちらでもない	421	251		422		251

うち、大学進学希望者 →

調査対象校の定義と校数　＜各エリアとも下記に該当する大学を調査対象とした＞

調査対象都府県に所在する全大学、及びその他2エリアの国立大学全て、公立・私立大学の入学定員 1000名以上の大学

※大学名　50音順

■ 関東エリア

【エリア内】244校

愛国学園大学
青山学院大学
麻布大学
亜細亜大学
足利大学
跡見学園女子大学
育英大学
茨城キリスト教大学
茨城県立医療大学
茨城大学
植草学園大学
上野学園大学
宇都宮共和大学
宇都宮大学
浦和大学
江戸川大学
桜美林大学
大妻女子大学
お茶の水女子大学
開智国際大学
嘉悦大学
学習院女子大学
学習院大学
神奈川県立保健福祉大学
神奈川工科大学
神奈川歯科大学
神奈川大学
鎌倉女子大学
亀田医療大学
川村学園女子大学
神田外語大学
関東学院大学
関東学園大学
北里大学
共愛学園前橋国際大学
共栄大学
共立女子大学
杏林大学
桐生大学
国立音楽大学
群馬医療福祉大学
群馬県立県民健康科学大学
群馬県立女子大学
群馬大学
群馬パース大学
敬愛大学
慶應義塾大学
恵泉女学園大学
工学院大学
國學院大學
国際医療福祉大学
国際基督教大学
国際ファッション専門職大学
国際武道大学
国士舘大学
こども教育宝仙大学
駒沢女子大学
駒澤大学
埼玉医科大学
埼玉学園大学
埼玉県立大学
埼玉工業大学
埼玉大学
相模女子大学
作新学院大学
三育学院大学
産業能率大学
自治医科大学
実践女子大学
芝浦工業大学
秀明大学
十文字学園女子大学
淑徳大学
首都大学東京
順天堂大学
松蔭大学
城西国際大学
城西大学
上智大学
湘南医療大学
湘南工科大学
尚美学園大学
上武大学
昭和音楽大学
昭和女子大学
昭和大学
昭和薬科大学
女子栄養大学
女子美術大学
白梅学園大学
白百合女子大学
杉野服飾大学
駿河台大学
聖学院大学
成蹊大学
成城大学
聖心女子大学
清泉女子大学
聖徳大学
西武文理大学
聖マリアンナ医科大学
聖路加国際大学
清和大学
専修大学
洗足学園音楽大学
創価大学
大正大学
大東文化大学
高崎経済大学
高崎健康福祉大学
高崎商科大学
高千穂大学
宝塚大学
拓殖大学
玉川大学
多摩大学
多摩美術大学
千葉科学大学
千葉経済大学
千葉県立保健医療大学
千葉工業大学
千葉商科大学
千葉大学
中央学院大学
中央大学
筑波学院大学
筑波技術大学
つくば国際大学
筑波大学
津田塾大学
鶴見大学
帝京科学大学
帝京大学
帝京平成大学
デジタルハリウッド大学
田園調布学園大学
電気通信大学
桐蔭横浜大学
東海大学
東京有明医療大学
東京医科歯科大学
東京医科大学
東京医療学院大学
東京医療保健大学
東京音楽大学
東京外国語大学
東京海洋大学
東京学芸大学
東京家政学院大学
東京家政大学
東京基督教大学
東京経済大学
東京芸術大学
東京工科大学
東京工業大学
東京工芸大学
東京国際大学
東京歯科大学
東京慈恵会医科大学
東京純心大学
東京情報大学
東京女子医科大学
東京女子体育大学
東京女子大学
東京神学大学
東京聖栄大学
東京成徳大学
東京造形大学
東京大学
東京電機大学
東京都市大学
東京農業大学
東京農工大学
東京福祉大学
東京富士大学
東京未来大学
東京薬科大学
東京理科大学
東都大学
東邦音楽大学
桐朋学園大学
東邦大学
東洋英和女学院大学
東洋学園大学
東洋大学
常磐大学
獨協医科大学
獨協大学
二松学舎大学
日本工業大学
日本歯科大学
日本体育大学
日本医科大学
日本医療科学大学
日本映画大学
日本社会事業大学
日本獣医生命科学大学
日本女子体育大学
日本女子大学
日本赤十字看護大学
日本大学
日本文化大学
日本保健医療大学
日本薬科大学
人間総合科学大学
白鴎大学
一橋大学
フェリス女学院大学
文化学園大学
文京学院大学
文教大学
文星芸術大学
平成国際大学
法政大学
星薬科大学
前橋工科大学
武蔵大学
武蔵野音楽大学
武蔵野学院大学
武蔵野大学
武蔵野美術大学
明海大学
明治学院大学
明治大学
明治薬科大学
明星大学
目白大学
ものつくり大学
ヤマザキ動物看護大学
横浜国立大学
横浜商科大学
横浜市立大学
横浜創英大学
横浜美術大学
横浜薬科大学
立教大学
立正大学
流通経済大学
了徳寺大学
ルーテル学院大学
麗澤大学
和光大学
早稲田大学
和洋女子大学

【エリア外】64校

愛知学院大学
愛知教育大学
愛知工業大学
愛知淑徳大学
愛知大学
追手門学院大学
大阪学院大学
大阪教育大学
大阪経済大学
大阪芸術大学
大阪工業大学
大阪産業大学
大阪商業大学
大阪市立大学
大阪大学
大阪電気通信大学
大阪府立大学
関西外国語大学
関西大学
関西学院大学
岐阜大学
京都教育大学
京都工芸繊維大学
京都産業大学
京都女子大学
京都精華大学
京都大学
京都橘大学
近畿大学
金城学院大学
甲南大学
神戸学院大学
神戸大学
滋賀医科大学
滋賀大学
静岡大学
椙山女学園大学
摂南大学
中京大学
常葉大学
豊橋技術科学大学
名古屋外国語大学
名古屋学院大学
名古屋工業大学
名古屋大学
奈良教育大学
奈良女子大学
南山大学
日本福祉大学
浜松医科大学
阪南大学
兵庫教育大学
兵庫県立大学
佛教大学
三重大学
武庫川女子大学
名城大学
桃山学院大学
立命館大学
龍谷大学
和歌山大学

■ 東海エリア

【エリア内】82校

愛知医科大学
愛知学院大学
愛知学泉大学
愛知教育大学
愛知県立芸術大学
愛知県立大学
愛知工科大学
愛知工業大学
愛知産業大学
愛知淑徳大学
愛知大学
愛知東邦大学
愛知文教大学
愛知みずほ大学
朝日大学
一宮研伸大学
桜花学園大学
岡崎女子大学
岐阜医療科学大学
岐阜協立大学
岐阜県立看護大学
岐阜聖徳学園大学
岐阜女子大学
岐阜大学
岐阜保健大学
岐阜薬科大学
金城学院大学
皇學館大学
国際ファッション専門職大学
至学館大学
静岡英和学院大学
静岡県立大学
静岡産業大学
静岡大学
静岡福祉大学
静岡文化芸術大学
静岡理工科大学
修文大学
椙山女学園大学
鈴鹿医療科学大学
鈴鹿大学
星城大学
聖隷クリストファー大学
大同大学
中京学院大学
中京大学
中部学院大学
中部大学
東海学院大学
東海学園大学
東京女子医科大学
同朋大学
常葉大学
豊田工業大学
豊橋技術科学大学
豊橋創造大学
名古屋音楽大学
名古屋外国語大学
名古屋学院大学
名古屋学芸大学
名古屋経済大学
名古屋芸術大学
名古屋工業大学
名古屋産業大学
名古屋商科大学
名古屋女子大学
名古屋市立大学
名古屋造形大学
名古屋大学
名古屋文理大学
南山大学
日本赤十字豊田看護大学
日本福祉大学
人間環境大学
浜松医科大学
浜松学院大学
藤田医科大学
三重県立看護大学
三重大学
名城大学
四日市看護医療大学
四日市大学

【エリア外】132校

青山学院大学
亜細亜大学
茨城大学
宇都宮大学
追手門学院大学
桜美林大学
大阪学院大学
大阪教育大学
大阪経済大学
大阪芸術大学
大阪工業大学
大阪産業大学
大阪商業大学
大阪市立大学
大阪大学
大阪電気通信大学
大阪府立大学
大妻女子大学
お茶の水女子大学
学習院大学
神奈川大学
神奈川工科大学
神奈川県立保健医療大学
神奈川歯科大学
神奈川大学
北里大学
京都教育大学
京都工芸繊維大学
京都産業大学
京都女子大学
京都精華大学
京都大学
京都橘大学
共立女子大学
杏林大学
近畿大学
群馬大学
慶應義塾大学
工学院大学
甲南大学
神戸学院大学
神戸大学
國學院大學
国際医療福祉大学
国士舘大学
駒澤大学
埼玉大学
滋賀医科大学
滋賀大学
芝浦工業大学
淑徳大学
首都大学東京
城西国際大学
城西大学
上智大学
昭和女子大学
成蹊大学
成城大学
聖徳大学
摂南大学
専修大学
創価大学
大正大学
大東文化大学
拓殖大学
玉川大学
多摩美術大学
千葉工業大学
千葉商科大学
千葉大学
中央大学
筑波技術大学
筑波大学
帝京科学大学
帝京大学
帝京平成大学
東京医科歯科大学
東京外国語大学
東京海洋大学
東京学芸大学
東京家政学院大学
東京家政大学
東京経済大学
東京芸術大学
東京工科大学
東京工業大学
東京国際大学
東京大学
東京電機大学
東京都市大学
東京農業大学
東京農工大学
東京福祉大学
東京理科大学
同志社女子大学
同志社大学
東洋大学
獨協大学
長浜バイオ大学
奈良学園大学
奈良教育大学
奈良県立医科大学
奈良県立大学
奈良女子大学
奈良大学
梅花女子大学
羽衣国際大学
花園大学
阪南大学
東大阪大学
姫路大学
姫路獨協大学
兵庫医科大学
兵庫医療大学
兵庫教育大学
兵庫県立大学
兵庫大学
びわこ学院大学
びわこ成蹊スポーツ大学
福知山公立大学
佛教大学
平安女学院大学
武庫川女子大学
明治国際医療大学
桃山学院教育大学
桃山学院大学
森ノ宮医療大学
大和大学
立命館大学
龍谷大学
流通科学大学
和歌山県立医科大学
和歌山信愛大学
和歌山大学

【エリア外】112校

愛知学院大学
愛知教育大学
愛知工業大学
愛知淑徳大学
愛知大学
青山学院大学
亜細亜大学
茨城大学
宇都宮大学
桜美林大学
大妻女子大学
お茶の水女子大学
学習院大学
神奈川工科大学
神奈川大学
関東学院大学
北里大学
岐阜大学
共立女子大学
杏林大学
金城学院大学
群馬大学
慶應義塾大学
工学院大学
國學院大學
国際医療福祉大学
国士舘大学
駒澤大学
埼玉大学
静岡大学
芝浦工業大学
淑徳大学
首都大学東京
城西国際大学
城西大学
上智大学
昭和女子大学
椙山女学園大学
成蹊大学
成城大学
聖徳大学
専修大学
創価大学
大正大学
大東文化大学
拓殖大学
玉川大学
多摩美術大学
千葉工業大学
千葉商科大学
千葉大学
中央大学
中京大学
中部大学
筑波技術大学
筑波大学
帝京科学大学
帝京大学
帝京平成大学
電気通信大学
東海大学
東京医科歯科大学
東京外国語大学
東京海洋大学
東京学芸大学
東京家政学院大学
東京家政大学
東京経済大学
東京芸術大学
東京工科大学
東京工業大学
東京国際大学
東京大学
東京電機大学
東京都市大学
東京農業大学
東京農工大学
東京福祉大学
東京理科大学
東洋大学
常葉大学
獨協大学
豊橋技術科学大学
名古屋外国語大学
名古屋学院大学
名古屋工業大学
名古屋大学
南山大学
日本工業大学
日本体育大学
日本女子大学
日本大学
日本福祉大学
白鴎大学
浜松医科大学
一橋大学
文京学院大学
文教大学
法政大学
三重大学
武蔵野大学
明海大学
明治学院大学
明治大学
名城大学
明星大学
目白大学
横浜国立大学
立教大学
立正大学
流通経済大学
早稲田大学

■ 関西エリア

【エリア内】147校

藍野大学
芦屋大学
追手門学院大学
大阪青山大学
大阪医科大学
大阪大谷大学
大阪音楽大学
大阪学院大学
大阪河崎リハビリテーション大学
大阪観光大学
大阪教育大学
大阪経済大学
大阪経済法科大学
大阪芸術大学
大阪工業大学
大阪国際大学
大阪産業大学
大阪歯科大学
大阪樟蔭女子大学
大阪商業大学
大阪女学院大学
大阪市立大学
大阪成蹊大学
大阪総合保育大学
大阪体育大学
大阪大学
大阪電気通信大学
大阪人間科学大学
大阪物療大学
大阪府立大学
大阪保健医療大学
大阪薬科大学
大阪行岡医療大学
大谷大学
大手前大学
関西医科大学
関西医療大学
関西外国語大学
関西看護医療大学
関西国際大学
関西大学
関西福祉科学大学
関西福祉大学
関西学院大学
畿央大学
京都医療科学大学
京都外国語大学
京都先端科学大学
京都華頂大学
京都看護大学
京都教育大学
京都光華女子大学
京都工芸繊維大学
京都産業大学
京都女子大学
京都市立芸術大学
京都精華大学
京都造形芸術大学
京都大学
京都橘大学
京都ノートルダム女子大学
京都美術工芸大学
京都府立医科大学
京都府立大学
京都文教大学
京都薬科大学
近畿大学
甲子園大学
甲南女子大学
甲南大学
神戸医療福祉大学
神戸海星女子学院大学
神戸学院大学
神戸芸術工科大学
神戸国際大学
神戸市外国語大学
神戸市看護大学
神戸松蔭女子学院大学
神戸女学院大学
神戸女子大学
神戸親和女子大学
神戸大学
神戸常盤大学
神戸薬科大学
神戸山手大学
高野山大学
国際ファッション専門職大学
嵯峨美術大学
滋賀医科大学
滋賀県立大学
滋賀大学
四條畷学園大学
四天王寺大学
種智院大学
成安造形大学
聖泉大学
摂南大学
千里金蘭大学
相愛大学
園田学園女子大学
太成学院大学
宝塚大学
宝塚医療大学
帝塚山学院大学
帝塚山大学
天理医療大学
天理大学
東京医療保健大学
同志社女子大学
同志社大学
常磐会学園大学

▶カレッジマネジメントTOPページへ戻る

別添資料として、以下関係団体からの要望書を添付した。

・一般社団法人大阪府薬剤師会

・一般社団法人大阪府病院薬剤師会

・一般社団法人兵庫県薬剤師会

・一般社団法人兵庫県病院薬剤師会

・一般社団法人京都府薬剤師会

大阪薬科大学における過去５年間の就職状況

平成26年度から平成30年度までの就職率と求人件数を示す。

薬学部薬学科

	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
卒業者数	331	292	293	327	325
就職希望者数	319	283	286	315	322
就職者数	279	262	277	302	298
就職率	87.5%	92.6%	96.9%	95.9%	92.5%

求人件数	1,656	1,583	1,442	1,437	1,288

＜抜粋版＞

ひと、くらし、みらいのために
厚生労働省
Ministry of Health , Labour and Welfare

労働市場分析レポート　第 35 号　平成 26 年 5 月 30 日

平成 18 年度と 25 年度の求人倍率

季節調整値でみた有効求人倍率は、平成 21 年 8 月の 0.42 倍を底として上昇に転じ、平成 25 年度末（平成 26 年 3 月）には、1.07 倍と平成 18 年度のピーク値（平成 18 年 7 月の 1.08 倍）とほぼ並んだ。このレポートでは「職業安定業務統計」の最新の年度値である平成 25 年度値を平成 18 年度値と比較することで、近年の労働力需給の特徴について考察する。

１．平成 18 年度の倍率に迫る平成 25 年度

有効求人倍率の長期的な推移をみると、景気拡張過程で有効求人倍率は上昇し、昭和 48 年度に 1.74 倍、平成 2 年度に 1.43 倍、平成 18 年度に 1.06 倍と、上昇過程におけるピークを迎えた。平成 25 年度の 0.97 倍は、景気拡張の中で平成 18 年度のピークの値に近づいている。また、あわせて新規求人倍率をみると、平成 25 年度は 1.53 倍であり、平成 18 年度の 1.56 倍に迫っている（図 1）。

ただし、有効求人倍率の内訳をみると常用のフルタイム（常用的フルタイム）は 0.78 倍と、一般の 0.97 倍に比べても、また、平成 18 年度の常用的フルタイムの 0.92 倍と比べても低さが目立っている（表 2）。

有効求人の内訳をみると、平成 25 年度の有効求人 217.9 万人のうち、常用的フルタイムは 122.4 万人と平成 18 年度の 146.2 万人に比べ少ない。一方、平成 25 年度の常用的パートタイムは 69.9 万人、臨時・季節は 25.5 万人と、すでに平成 18 年度値を上回っている（図 3）。

２．女性と高齢層でみられるパート求職者の増加

有効求職者の内訳をみると、平成 25 年度の有効求職者 223.7 万人のうち、常用的フルタイムは 156.8 万人と平成 18 年度の 159.5 万人に比べ少ないが、常用的パートタイムは 64.2 万人で、平成 18 年度の 49.5 万人より多く、有効求職者全体としてみても、平成 25 年度の値は 18 年度の値を超えている（図 3）。

常用的フルタイムを年齢階級別にみると、男女とも 35 歳未満層で、平成 25 年度の値が小さくなっている（図 4）。

一方、常用的パートタイムを年齢階級別にみると、男性の 60 歳以上層、女性の 35～49 歳層及び 60 歳以上層で、平成 25 年度の値が大きい（図 4）。

３．小規模企業と大企業でウェイトが高まる新規求人

求人の動向を、新規求人により規模別にみると、平成 25 年度の新規求人は、4 人以下規模企業と 1000 人以上規模企業で、平成 18 年度の値より大きい（図 6）。

規模別求人の動向を、常用、臨時・季節の別にみると、平成 18 年度と比べ 1000 以上規模の求人が増加しているのは、常用的パートタイムと臨時・季節によるものであることが分かる（図 7）。

また、求人の動向を産業別にみると、常用的フルタイムと常用的パートタイムで医療、福祉の求人が多く、臨時・季節で、卸売・小売業やサービス業等での求人が多い（図 8）。

４．一部の職業で特に高い水準にある求人倍率

職業別に新規求人倍率をみると、医師・歯科医師・獣医・薬剤師（10.05 倍）、建設躯体工事の職業（7.98 倍）、保安の職業（5.59 倍）など、平成 18 年度値を超え特に高い水準にある職業がみられる（表 9）。

表 9 の職業分類でみれば、平成 25 年度には求人倍率が平成 18 年度値を超える職業は 15 あるが、その職業の求職者（新規求職者）の総計は 11.1 万人であり、新規求職者に占める割合は 21.5％にすぎない。一方、平成 18 年度の倍率以下にある求職者は、平成 25 年度において、約 8 割を占めている（図 10）。

なお、平成 18 年度において、平均を超える職業の求職者数と平均倍率以下の職業の求職者数はほぼ同数であるが、平成 25 年度においては、平均を超える職業の求職者数は全体の 36.7％であり、特定の職業の求人倍率が高く、平均値以下の倍率のものとにある求職者の方が多い（表 11）。

職業別求人倍率の順位 5 階級別に求人倍率をみると、上位 2 割の職業で、平成 25 年度の倍率が 18 年度値を上回っており、一部の職業で、求人倍率が特に高い水準にあるとともに、相対的にみて労働力需給の改善に遅れがみられる求職者も少なくないことが分かる（図 12）。

問い合わせ先
職業安定局雇用政策課
石水喜夫　直通：03-3502-6770

表９　職業別新規求人倍率（職業分類の大括化による簡易接合）

（単位：倍）

	平成18年度	平成25年度
職業計（常用新規求人倍率）	1.49	1.37
専門的・技術的職業（福祉関係を除く）	2.80	2.34
建築・土木・測量技術者	2.64	4.88
情報処理・通信技術者	5.28	2.96
医師・歯科医師・獣医・薬剤師	7.28	10.05
保健師・助産師・看護師	2.63	3.46
医療技術者	2.72	3.42
美術家、デザイナー、写真家	0.68	0.68
その他の専門的・技術的職業	2.56	1.11
管理的職業	1.16	1.34
事務的職業	0.66	0.52
販売の職業	1.77	1.71
福祉・サービスの職業	2.29	2.41
介護・医療・家庭支援サービスの職業	1.75	2.31
生活衛生サービスの職業	2.86	3.37
飲食物調理の職業	2.20	2.36
その他のサービス職業	3.45	2.50
保安の職業	5.02	5.59
農林漁業の職業	1.24	1.43
生産工程の職業	2.19	1.31
運転・輸送の職業	1.92	2.07
鉄道運転の職業	0.47	0.46
自動車運転の職業	1.97	2.25
船舶・航空機運転の職業	0.51	0.61
その他の輸送の職業	1.49	0.83
建設工事関連の職業	2.53	3.46
建設躯体工事の職業	6.48	7.98
建設の職業	2.51	3.55
電気工事の職業	3.10	2.62
土木の職業	1.73	3.01
その他の労務の職業	0.99	0.94
分類不能の職業	－	－

資料出所：厚生労働省「職業安定業務統計」をもとに試算

（注）1）本表は、旧分類（平成11年改定の労働省編職業分類）と新分類（平成23年改定の厚生労働省編職業分類）とを簡易な方法により接合したもの。職業分類の新旧を接合する場合は、職業小分類まで遡って数値の接合を図るのが好ましいが、本表では中分類の値を用いて職業を大括りにすることで接合を図った。このため、大括化したものには新たな職業名を付している。

2）介護・医療・家庭支援サービスの職業は、旧分類のその他の保健医療の職業、社会福祉専門の職業、家庭生活支援サービスの職業の合計、新分類のその他の保健医療の職業、社会福祉の専門的職業、家庭生活支援サービスの職業、介護サービスの職業、保健医療サービスの職業の合計とした。

3）その他の専門的・技術的職業は、旧分類の機械・電気技術者、鉱工業技術者、その他の技術者、その他の専門的職業の合計、新分類の開発技術者、製造技術者、その他の技術者、その他の専門的職業の合計とした。

4）その他のサービス職業は、旧分類の接客・給仕の職業、居住施設・ビル等の管理の職業、その他のサービスの職業の合計、新分類の接客・給仕の職業、居住施設・ビル等の管理の職業、その他のサービスの職業の合計とした（中分類の各項目は接合しない）。

5）その他の労務の職業は、旧分類の通信の職業、定置・建設機械運転の職業、採掘の職業、運搬労務の職業、その他の労務の職業の合計、新分類の定置・建設機械運転の職業、採掘の職業、運搬・清掃・包装等の職業の合計とした。

6）旧分類の生産工程・労務の職業のうち、本表の運転・輸送の職業、建設工事関連の職業、その他の労務の職業に加えなかったものを生産工程の職業とした。

7）平成25年度の○印は、平成18年度の倍率を超える職業に付した。なお、中分類に付すことを基本としたが、中分類がない職業は大分類に付した。

＜抜粋版＞

ひと、くらし、みらいのために
厚生労働省
Ministry of Health, Labour and Welfare

政府統計

平成 29 年 12 月 14 日
政策統括官付参事官付保健統計室
室　長　森　桂
専 門 官　小澤　公子
医師・歯科医師・薬剤師統計係
（代表電話）　03(5253)1111(内線 7523)
（直通電話）　03(3595)2958

平成２８年（２０１６）

医師・歯科医師・薬剤師調査の概況

目　次

頁

調査の概要 …… 1

結果の概要 …… 3

１　医　師
（１）　施設・業務の種別にみた医師数 …… 4
（２）　医療施設に従事する医師数
１）　性・年齢階級別にみた医師数 …… 5
２）　施設の種別にみた医師数 …… 6
３）　診療科別にみた医師数 …… 8
４）　取得している広告可能な医師の専門性に関する資格名及び麻酔科の標榜資格別にみた医師数 …… 12
５）　都道府県（従業地）別にみた人口 10 万対医師数 …… 14

２　歯科医師
（１）　施設・業務の種別にみた歯科医師数 …… 16
（２）　医療施設に従事する歯科医師数
１）　性・年齢階級別にみた歯科医師数 …… 17
２）　施設の種別にみた歯科医師数 …… 18
３）　診療科別にみた歯科医師数 …… 20
４）　取得している広告可能な歯科医師の専門性に関する資格名別にみた歯科医師数 …… 21
５）　都道府県（従業地）別にみた人口 10 万対歯科医師数 …… 21

３　薬 剤 師
（１）　施設･業務の種別にみた薬剤師数 …… 22
（２）　薬局・医療施設に従事する薬剤師数
１）　施設の種別にみた薬剤師数 …… 23
２）　性・年齢階級別にみた薬剤師数 …… 24
３）　都道府県（従業地）別にみた人口 10 万対薬剤師数 …… 25

統 計 表 …… 26

平成２８年医師・歯科医師・薬剤師調査の結果は、厚生労働省のホームページにも掲載されています。
アドレス　(http://www.mhlw.go.jp/toukei/list/33-20.html)

調　査　の　概　要

１　調査の目的

この調査は、医師、歯科医師及び薬剤師について、性、年齢、業務の種別、従事場所及び診療科名（薬剤師を除く。）等による分布を明らかにし、厚生労働行政の基礎資料を得ることを目的とするものであり、昭和 57 年までは毎年、同年以降は２年ごとに実施している。

２　調査の期日

平成 28 年 12 月 31 日現在

３　調査の対象及び客体

日本国内に住所があって、医師法第６条第３項により届け出た医師、歯科医師法第６条第３項により届け出た歯科医師及び薬剤師法第９条により届け出た薬剤師の各届出票を調査の対象及び客体とした。

４　調査の事項

(1) 住所
(2) 性別
(3) 生年月日
(4) 登録年月日
(5) 業務の種別
(6) 従事先の所在地
(7) 主たる業務内容（薬剤師を除く）
(8) 従事する診療科名（薬剤師を除く）
(9) 取得している広告可能な医師・歯科医師の専門性に関する資格名（薬剤師を除く）

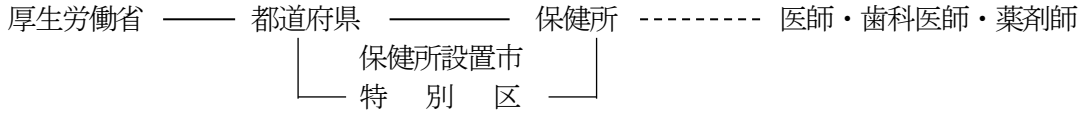
等

５　調査の方法及び系統

(1) 調査の方法

届出義務者である医師、歯科医師及び薬剤師から提出された届出票を、保健所で取りまとめ厚生労働大臣に提出する。

(2) 調査の系統



６　結果の集計

厚生労働省政策統括官（統計・情報政策担当）において行った。

7　用語の説明

「病院」

医師又は歯科医師が医業又は歯科医業を行う場所であって、患者 20 人以上の入院施設を有するものをいう。

「医育機関」

学校教育法に基づく大学等において、医学又は歯学の教育を行う機関をいう。

「診療所」

医師又は歯科医師が医業又は歯科医業を行う場所であって、患者の入院施設を有しないもの、又は患者 19 人以下の入院施設を有するものをいう。

「介護老人保健施設」

介護保険法による都道府県知事の開設許可を受けた施設であって、入所する要介護者に対し、施設サービス計画に基づいて、看護、医学的管理下における介護及び機能訓練その他必要な医療並びに日常生活上の世話を行うことを目的とする施設をいう。

8　利用上の注意

(1) 表章記号の規約

計数のない場合	－
計数不明又は計数を表章することが不適当な場合	…
統計項目のあり得ない場合	・
比率等でまるめた結果が表章すべき最下位の桁の１に達しない場合	0.0
減少数又は減少率を意味する場合	△

(2) 掲載している割合の数値は四捨五入しているため、内訳の合計が「総数」に合わない場合がある。

(3) 人口 10 万対比率は、「人口推計（平成 28 年 10 月 1 日現在)」（総務省）の総人口により算出した。

(4) 「広告可能な医師・歯科医師の専門性に関する資格名」は、「医療法第六条の五第一項及び第六条の七第一項の規定に基づく医業、歯科医業若しくは助産師の業務又は病院、診療所若しくは助産所に関して広告することができる事項」（平成 19 年厚生労働省告示第 108 号）第１条第２号に基づき広告することができる医師・歯科医師の専門性に関する資格名（同告示で定める基準を満たすものとして厚生労働大臣に届出がなされた団体の認定する資格名）である。

なお、本概況においては「専門性資格」という。

(5) 本調査における診療科名は、医療法において広告が認められている診療科名である。

医療機関が標榜する診療科名については、従来、医療法施行令に具体的名称を限定列挙して規定していたところであるが、平成 20 年４月１日から適切な医療機関の選択と受診を支援する観点から、身体の部位や患者の疾患等、一定の性質を有する名称を診療科名とする柔軟な方式に改められたため、年次推移の単純な比較はできない。

（参照：平成 20 年３月 31 日医政発第 0331042 号医政局長通知「広告可能な診療科名の改正について」）

ＵＲＬ(http://www.mhlw.go.jp/topics/bukyoku/isei/kokokukisei/dl/koukokukanou.pdf)

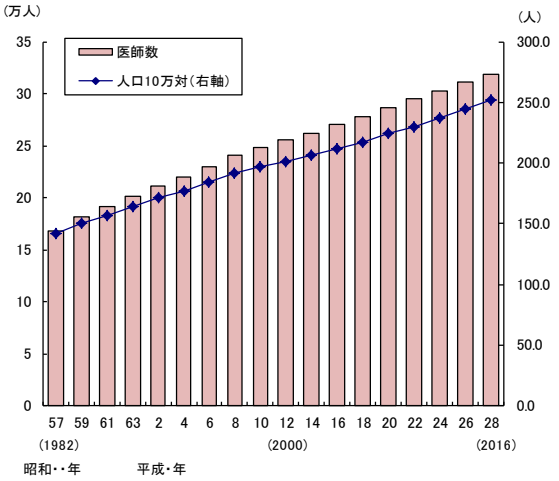
結　果　の　概　要

本調査は、平成 28 年 12 月 31 日現在における全国の届出「医師」319,480 人、「歯科医師」104,533 人、「薬剤師」301,323 人を各々取りまとめたものである。

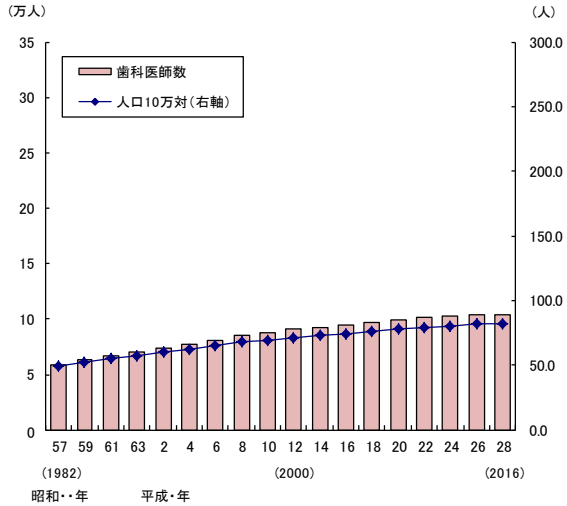
医師・歯科医師・薬剤師数の年次推移

各年 12 月 31 日現在

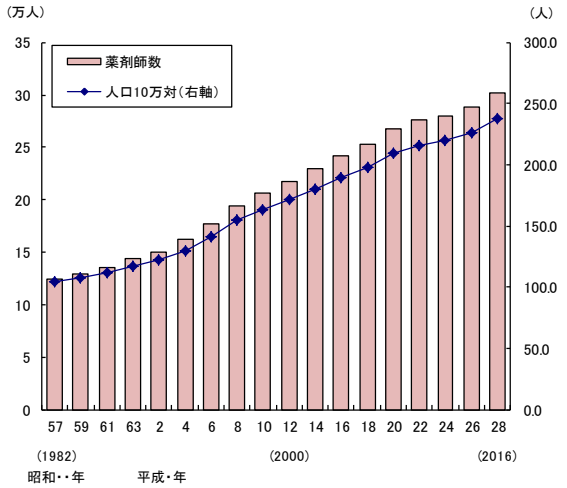
	医師数（人）	増減率（%）	人口10万対（人）
昭和 57 年 (1982)	167 952	…	141.5
59 ('84)	181 101	7.8	150.6
61 ('86)	191 346	5.7	157.3
63 ('88)	201 658	5.4	164.2
平成 2 年 ('90)	211 797	5.0	171.3
4 ('92)	219 704	3.7	176.5
6 ('94)	230 519	4.9	184.4
8 ('96)	240 908	4.5	191.4
10 ('98)	248 611	3.2	196.6
12 (2000)	255 792	2.9	201.5
14 ('02)	262 687	2.7	206.1
16 ('04)	270 371	2.9	211.7
18 ('06)	277 927	2.8	217.5
20 ('08)	286 699	3.2	224.5
22 ('10)	295 049	2.9	230.4
24 ('12)	303 268	2.8	237.8
26 ('14)	311 205	2.6	244.9
28 ('16)	319 480	2.7	251.7



	歯科医師数（人）	増減率（%）	人口10万対（人）
昭和 57 年 (1982)	58 362	…	49.2
59 ('84)	63 145	8.2	52.5
61 ('86)	66 797	5.8	54.9
63 ('88)	70 572	5.7	57.5
平成 2 年 ('90)	74 028	4.9	59.9
4 ('92)	77 416	4.6	62.2
6 ('94)	81 055	4.7	64.8
8 ('96)	85 518	5.5	67.9
10 ('98)	88 061	3.0	69.6
12 (2000)	90 857	3.2	71.6
14 ('02)	92 874	2.2	72.9
16 ('04)	95 197	2.5	74.6
18 ('06)	97 198	2.1	76.1
20 ('08)	99 426	2.3	77.9
22 ('10)	101 576	2.2	79.3
24 ('12)	102 551	1.0	80.4
26 ('14)	103 972	1.4	81.8
28 ('16)	104 533	0.5	82.4



	薬剤師数（人）	増減率（%）	人口10万対（人）
昭和 57 年 (1982)	124 390	…	104.8
59 ('84)	129 700	4.3	107.9
61 ('86)	135 990	4.8	111.8
63 ('88)	143 429	5.5	116.8
平成 2 年 ('90)	150 627	5.0	121.9
4 ('92)	162 021	7.6	130.2
6 ('94)	176 871	9.2	141.5
8 ('96)	194 300	9.9	154.4
10 ('98)	205 953	6.0	162.8
12 (2000)	217 477	5.6	171.3
14 ('02)	229 744	5.6	180.3
16 ('04)	241 369	5.1	189.0
18 ('06)	252 533	4.6	197.6
20 ('08)	267 751	6.0	209.7
22 ('10)	276 517	3.3	215.9
24 ('12)	280 052	1.3	219.6
26 ('14)	288 151	2.9	226.7
28 ('16)	301 323	4.6	237.4



3　薬剤師

平成 28 年 12 月 31 日現在における全国の届出「薬剤師数」は 301,323 人で、「男」116,826 人（総数の 38.8%）、「女」184,497 人（同 61.2%）となっている。

平成 28 年届出薬剤師数を前回と比べると 13,172 人、4.6%増加している。

また、人口 10 万対薬剤師数は 237.4 人で、前回に比べ 10.7 人増加している。

（1） 施設・業務の種別にみた薬剤師数

主に従事している施設・業務の種別をみると、「薬局の従事者」は 172,142 人（総数の 57.1%）で、前回に比べ 10,944 人、6.8%増加している。「医療施設の従事者」は 58,044 人（同 19.3%）で、3,165 人、5.8%増加している。そのうち、「病院の従事者」は 52,145 人（同 17.3%）、「診療所の従事者」は 5,899 人（同 2.0%）となっている。「大学の従事者」は 5,046 人で、前回に比べ 57 人減少し、「医薬品関係企業の従事者」は 42,024 人で 1,584 人減少し、「衛生行政機関又は保健衛生施設の従事者」は 6,813 人で 237 人増加している。（表 15）

（参考）統計表１　医師・歯科医師・薬剤師数、構成割合及び平均年齢，性・年齢階級、施設・業務の種別

表 15　施設・業務の種別にみた薬剤師数

各年12月31日現在

	平成28年（2016）		平成26年（2014）	対前回		人口10万対（人）		
	薬剤師数（人）	構成割合（%）	薬剤師数（人）	増減数（人）	増減率（%）	平成28年（2016）	平成26年（2014）	増減数
総　　数[1]	301 323	100.0	288 151	13 172	4.6	237.4	226.7	10.7
男	116 826	38.8	112 494	4 332	3.9	92.0	88.5	3.5
女	184 497	61.2	175 657	8 840	5.0	145.3	138.2	7.1
薬局の従事者	172 142	57.1	161 198	10 944	6.8	135.6	126.8	8.8
薬局の開設者又は法人の代表者	17 201	5.7	17 859	△ 658	△ 3.7	13.6	14.1	△ 0.5
薬局の勤務者	154 941	51.4	143 339	11 602	8.1	122.1	112.8	9.3
医療施設の従事者	58 044	19.3	54 879	3 165	5.8	45.7	43.2	2.5
医療施設で調剤・病棟業務に従事する者	55 634	18.5	52 577	3 057	5.8	43.8	41.4	2.4
医療施設でその他（治験、検査等）の業務に従事する者	2 410	0.8	2 302	108	4.7	1.9	1.8	0.1
病院の従事者	52 145	17.3	48 980	3 165	6.5	41.1	38.5	2.6
病院で調剤・病棟業務に従事する者	50 785	16.9	47 708	3 077	6.4	40.0	37.5	2.5
病院でその他（治験、検査等）の業務に従事する者	1 360	0.5	1 272	88	6.9	1.1	1.0	0.1
診療所の従事者	5 899	2.0	5 899	－	－	4.6	4.6	0.0
診療所で調剤・病棟業務に従事する者	4 849	1.6	4 869	△ 20	△ 0.4	3.8	3.8	0.0
診療所でその他（治験、検査等）の業務に従事する者	1 050	0.3	1 030	20	1.9	0.8	0.8	0.0
大学の従事者	5 046	1.7	5 103	△ 57	△ 1.1	4.0	4.0	0.0
大学の勤務者（研究・教育）	4 523	1.5	4 640	△ 117	△ 2.5	3.6	3.7	△ 0.1
大学院生又は研究生	523	0.2	463	60	13.0	0.4	0.4	0.0
医薬品関係企業の従事者	42 024	13.9	43 608	△ 1 584	△ 3.6	33.1	34.3	△ 1.2
医薬品製造販売業・製造業（研究・開発、営業、その他）に従事する者[2]	30 265	10.0	30 762	△ 497	△ 1.6	23.8	24.2	△ 0.4
医薬品販売業に従事するもの[3]	11 759	3.9	12 846	△ 1 087	△ 8.5	9.3	10.1	△ 0.8
衛生行政機関又は保健衛生施設の従事者	6 813	2.3	6 576	237	3.6	5.4	5.2	0.2
その他の者	17 233	5.7	16 766	467	2.8	13.6	13.2	0.4
その他の業務の従事者	6 802	2.3	6 349	453	7.1	5.4	5.0	0.4
無職の者	10 431	3.5	10 417	14	0.1	8.2	8.2	0.0

注：1）「総数」には、「施設・業務の種別」の不詳を含む。
　　2）製薬会社（その研究所を含む）、血液センター等医薬品の製造販売業又は製造業に従事する者。
　　3）医薬品の店舗販売業、配置販売業、卸売販売業に従事する者。

年齢階級別にみると、「30～39 歳」が 76,714 人（25.5%）と最も多く、次いで「40～49 歳」71,949 人（23.9%）となっている。

施設の種別に年齢階級をみると、「薬局」「大学」「医薬品関係企業」では「40～49 歳」、「病院」では「30～39 歳」、「診療所」では「50～59 歳」が最も多い。

平均年齢をみると、「薬局」では 46.5 歳、「病院」40.7 歳、「診療所」56.8 歳、「医薬品関係企業」46.8 歳となっている。（表 16）

（参考）統計表１　医師・歯科医師・薬剤師数、構成割合及び平均年齢，性・年齢階級、施設・業務の種別

表 16　年齢階級、施設の種別にみた薬剤師数及び施設の種別薬剤師の平均年齢

平成28（2016）年12月31日現在

	総　数[1]	薬局・医療施設	（再掲）			大　学	医薬品関係企業	衛生行政機関又は保健衛生施設	その他の者
			薬局	病院	診療所				
				薬　剤　師　数　（人）					
総　数	301 323	230 186	172 142	52 145	5 899	5 046	42 024	6 813	17 233
29 歳 以 下	39 494	33 178	20 009	13 033	136	583	3 898	962	872
30 ～ 39 歳	76 714	58 780	42 761	15 528	491	1 227	10 432	2 347	3 927
40 ～ 49 歳	71 949	54 715	42 830	10 916	969	1 236	11 097	1 568	3 331
50 ～ 59 歳	60 514	44 908	34 829	8 222	1 857	1 154	10 072	1 483	2 895
60 ～ 69 歳	38 409	29 228	23 744	3 773	1 711	792	4 636	411	3 338
70 歳 以 上	14 243	9 377	7 969	673	735	54	1 889	42	2 870
				構　成　割　合　（%）					
総　数	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
29 歳 以 下	13.1	14.4	11.6	25.0	2.3	11.6	9.3	14.1	5.1
30 ～ 39 歳	25.5	25.5	24.8	29.8	8.3	24.3	24.8	34.4	22.8
40 ～ 49 歳	23.9	23.8	24.9	20.9	16.4	24.5	26.4	23.0	19.3
50 ～ 59 歳	20.1	19.5	20.2	15.8	31.5	22.9	24.0	21.8	16.8
60 ～ 69 歳	12.7	12.7	13.8	7.2	29.0	15.7	11.0	6.0	19.4
70 歳 以 上	4.7	4.1	4.6	1.3	12.5	1.1	4.5	0.6	16.7
平 均 年 齢	46.0 歳	45.5 歳	46.5 歳	40.7 歳	56.8 歳	46.1 歳	46.8 歳	42.3 歳	53.0 歳

注：1）「総数」には、「施設の種別」の不詳を含む。

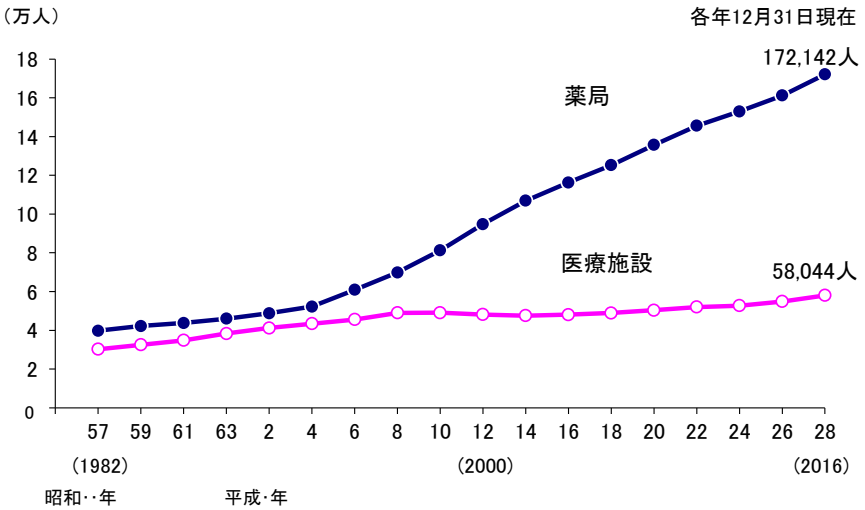
（2）　薬局・医療施設に従事する薬剤師数

1）　施設の種別にみた薬剤師数

薬局・医療施設（病院・診療所）に従事する薬剤師を施設の種別にみると、「薬局」が 172,142 人、「医療施設」が 58,044 人となっており、これを年次推移でみると、「薬局」は大幅に増加しており、「医療施設」は増加傾向が続いている（図 13）。

（参考）統計表２　医師・歯科医師・薬剤師数の年次推移，施設の種別・性別

図 13　施設の種別にみた薬局・医療施設に従事する薬剤師数の年次推移



２）性・年齢階級別にみた薬剤師数

薬局･医療施設に従事する薬剤師を性別にみると､｢男｣が 78,432 人で､前回に比べ 5,220 人 (7.1%) 増加し、「女」は 151,754 人で、8,889 人（6.2%）増加している。

年齢階級別にみると、「30～39 歳」が 58,780 人（25.5%）と最も多く、次いで「40～49 歳」54,715 人（23.8%）となっている。これを性別にみると、「男」は「30～39 歳」(28.9%) が最も多く、「女」は「40～49 歳」(25.2%)が最も多い。(表 17)

（参考）統計表４　医療施設従事医師・歯科医師数、薬局・医療施設従事薬剤師数及び構成割合の年次推移，年齢階級、性別
統計表５　医療施設従事医師･歯科医師数及び薬局･医療施設従事薬剤師数の年次推移,施設の種別、年齢階級、性別

表 17　性、年齢階級別にみた薬局・医療施設に従事する薬剤師数

各年12月31日現在

			総　数	29歳以下	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上
薬剤師数（人）	平成28年（2016）	総数	230 186	33 178	58 780	54 715	44 908	29 228	9 377
		男	78 432	12 114	22 687	16 479	13 194	9 926	4 032
		女	151 754	21 064	36 093	38 236	31 714	19 302	5 345
	平成26年（2014）	総数	216 077	31 318	55 708	50 738	44 462	25 259	8 592
		男	73 212	11 736	20 535	15 169	13 049	8 792	3 931
		女	142 865	19 582	35 173	35 569	31 413	16 467	4 661
対前回	増減数（人）	総数	14 109	1 860	3 072	3 977	446	3 969	785
		男	5 220	378	2 152	1 310	145	1 134	101
		女	8 889	1 482	920	2 667	301	2 835	684
	増減率（%）	総数	6.5	5.9	5.5	7.8	1.0	15.7	9.1
		男	7.1	3.2	10.5	8.6	1.1	12.9	2.6
		女	6.2	7.6	2.6	7.5	1.0	17.2	14.7
構成割合（%）	性・年齢階級別	総数	100.0	14.4	25.5	23.8	19.5	12.7	4.1
		男	34.1	5.3	9.9	7.2	5.7	4.3	1.8
		女	65.9	9.2	15.7	16.6	13.8	8.4	2.3
	年齢階級別	総数	100.0	14.4	25.5	23.8	19.5	12.7	4.1
		男	100.0	15.4	28.9	21.0	16.8	12.7	5.1
		女	100.0	13.9	23.8	25.2	20.9	12.7	3.5
	性別	総数	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
		男	34.1	36.5	38.6	30.1	29.4	34.0	43.0
		女	65.9	63.5	61.4	69.9	70.6	66.0	57.0

３）都道府県（従業地）別にみた人口 10 万対薬剤師数

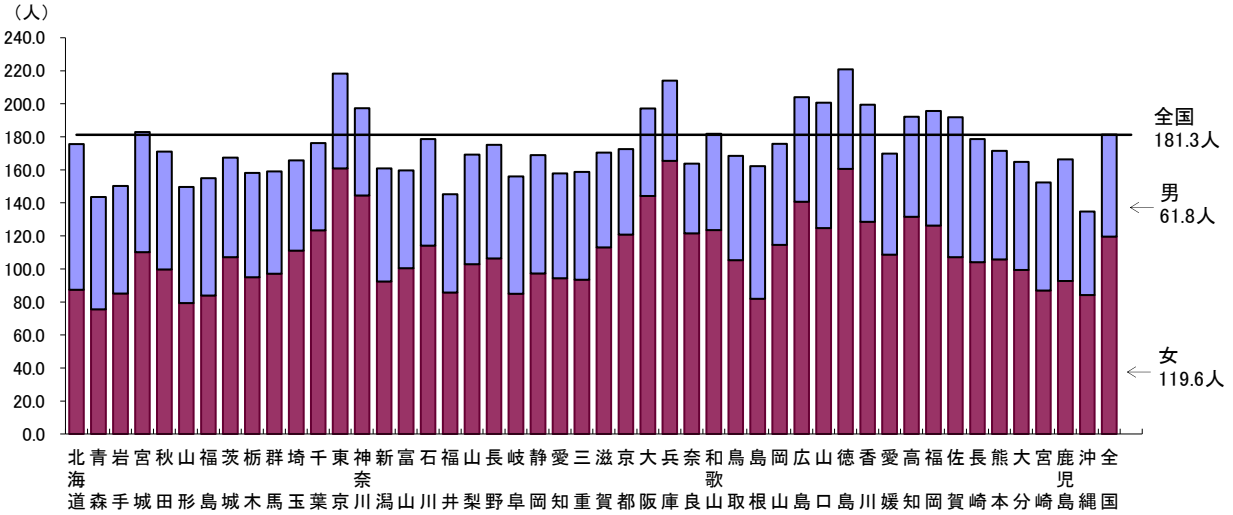
薬局・医療施設に従事する人口 10 万対薬剤師数は 181.3 人で、前回（170.0 人）に比べ 11.3 人増加している。

これを都道府県（従業地）別にみると、徳島県が 220.9 人と最も多く、次いで東京都 218.3 人、兵庫県 214.0 人となっており、沖縄県が 134.7 人と最も少なく、次いで、青森県 143.5 人、福井県 145.1 人となっている。（図 14）

（参考）統計表 15　人口 10 万対医師･歯科医師･薬剤師数，従業地による都道府県－指定都市･特別区・中核市（再掲）、業務の種別、性別
統計表 16　人口 10 万対医療施設従事医師･歯科医師数及び薬局･医療施設従事薬剤師数の年次推移，従業地による都道府県－指定都市・特別区・中核市（再掲）別

図 14　都道府県（従業地）別にみた薬局・医療施設に従事する人口 10 万対薬剤師数

平成 28（2016）年 12 月 31 日現在



大阪薬科大学における過去５年間の就職状況

平成26年度から平成30年度までの就職率を示す。

薬学部薬科学科

	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
卒業者数	4	－	2	3	2
就職希望者数	1	－	0	2	1
就職者数	1	－	0	2	1
就職率	100.0%	－	－	100.0%	100.0%